

平成30年度

# 小学校

## 標準学力調査 結果概要

那覇市立教育研究所

### ●概要

那覇市内の児童の学習状況について、教研式学力検査CRTの結果をもとに分析診断します。CRTは、基本的に学習指導要録に示された観点別の診断結果をお届けしますが、この資料では、その観点をまとめた「要素」(①知識・理解／技能、②思考・判断・表現)別にグラフを作成しています。なお、観点と要素との対応は、以下の表のとおりです。

また「小問」ごとに正答率・無答率を分析した一覧表や、それをもとにした学習指導上の留意点等についてコメントしています。(各学年の冒頭では領域別の結果も表示しています。)

観点	国語	②	話す・聞く能力
		③	書く能力
		④	読む能力
		⑤	言語についての知識・理解・技能
		算数	数学的な考え方
			数量や図形についての技能
			数量や図形についての知識・理解

要素	1	知識・理解、技能といった基礎的な内容 (算数は③・④観点)
	2	思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容 (算数は②観点)

### ●対象

- 市内の公立小学校 2年生・4年生の児童

### ●教科

- 国語・算数

### ●実施時期

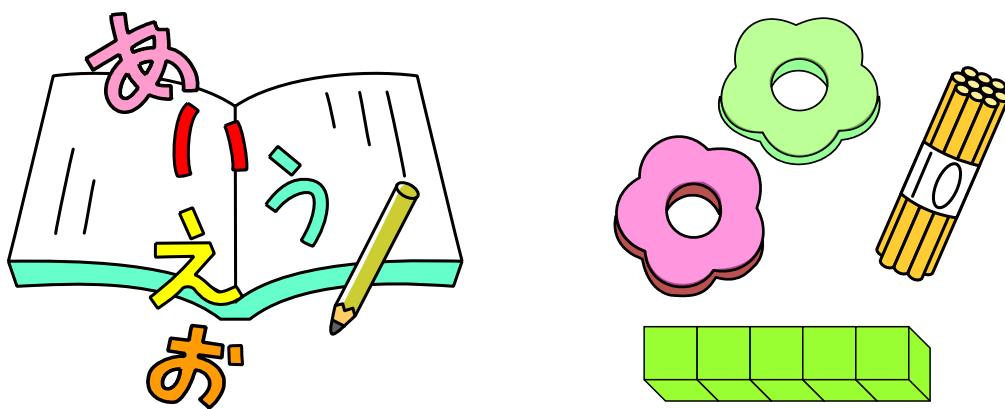
- 平成30年度 新学期



平成 30 年度  
標準学力調査

# 第 2 学年

## 国語・算数

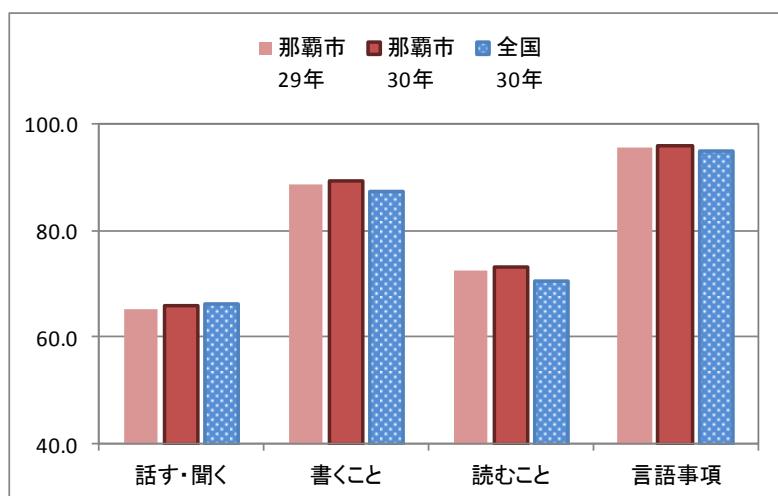
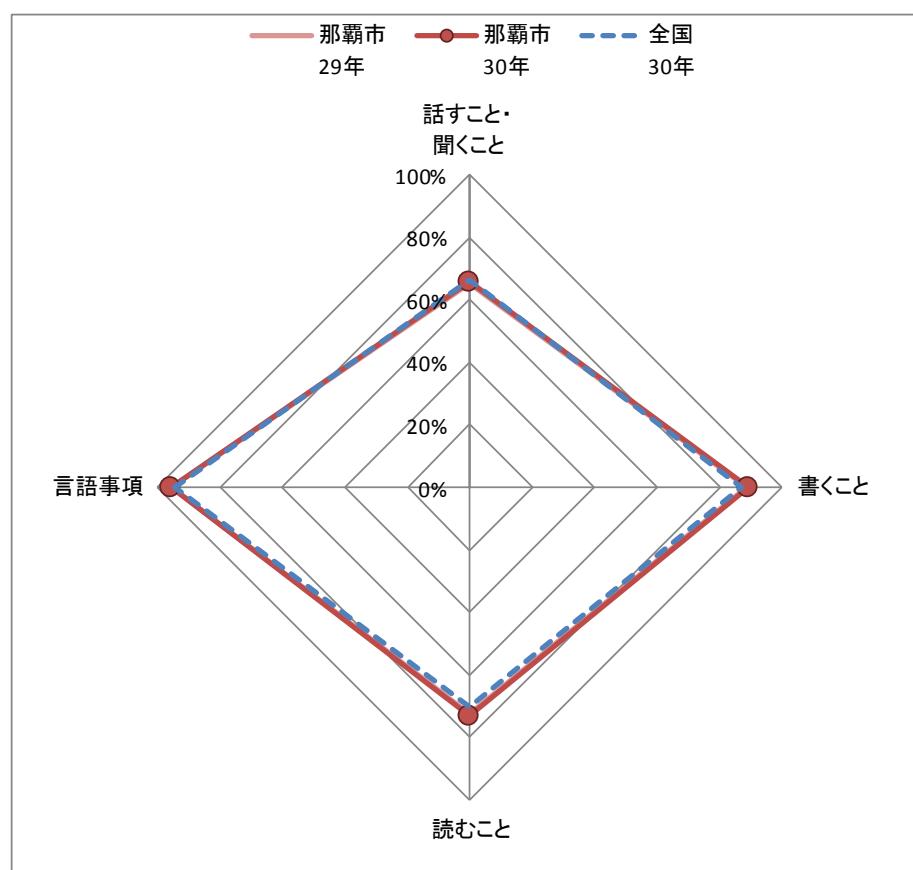


## 【第2学年 国語】

平成30年度那覇市到達度調査結果

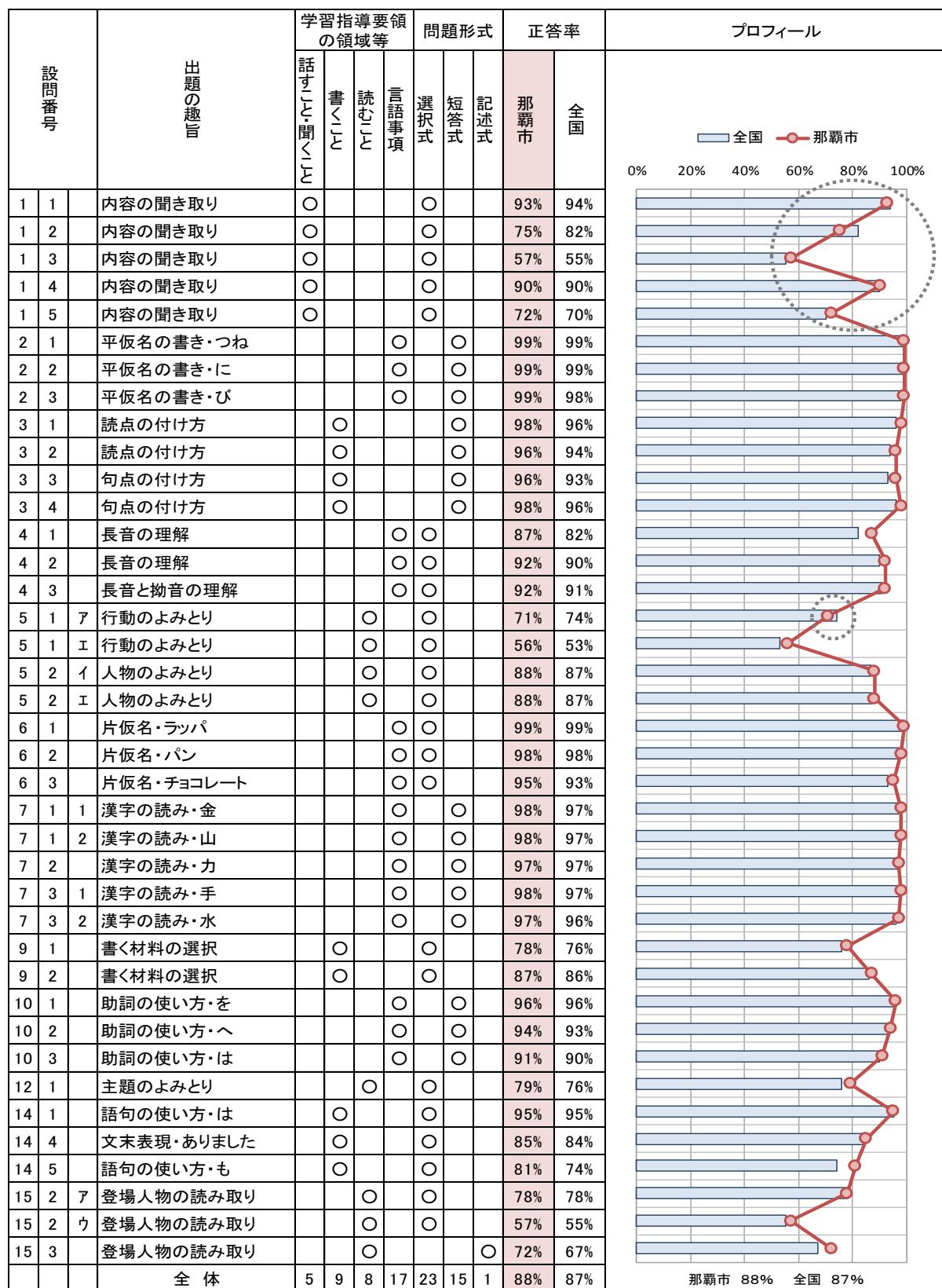
### 領域別結果（昨年度・全国との比較）

第2学年 国語	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	65.3	65.9	66.2
書くこと	88.4	89.1	87.1
読むこと	72.6	73.2	70.5
言語事項	95.5	95.8	94.8



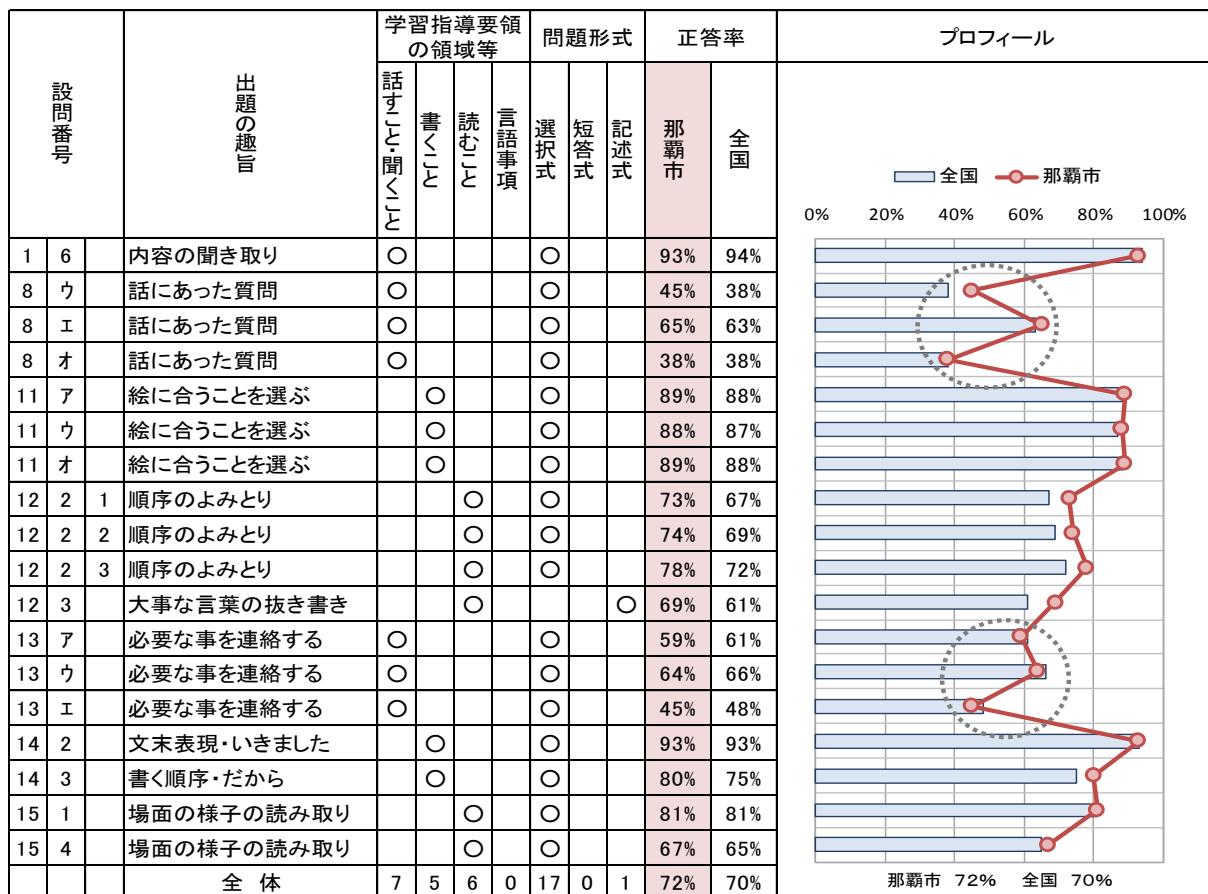
## 第2学年 国語 要素1

## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】



## 第2学年 国語 要素2

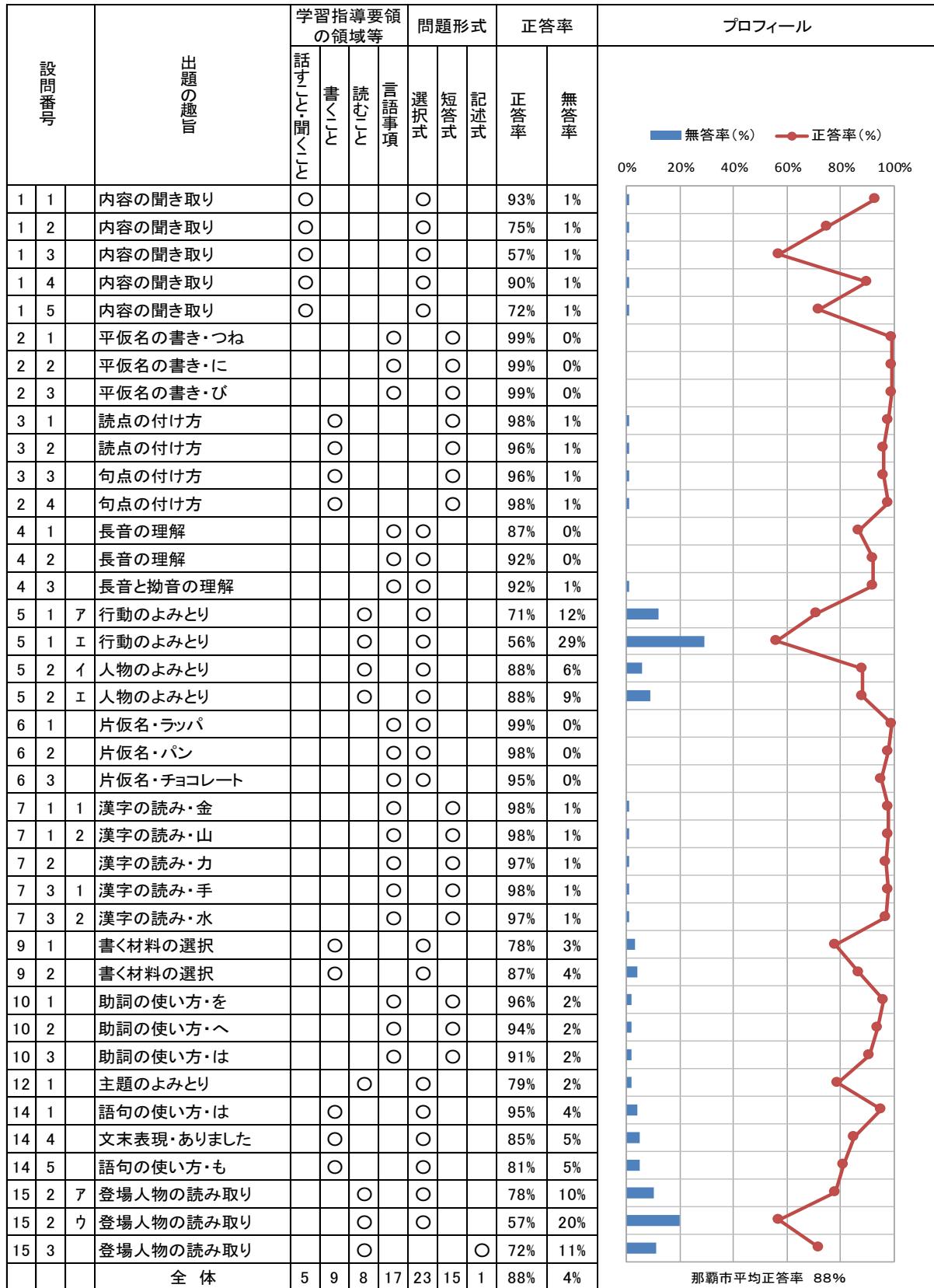
## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】



…課題となる問題として、考察コメントがあります。

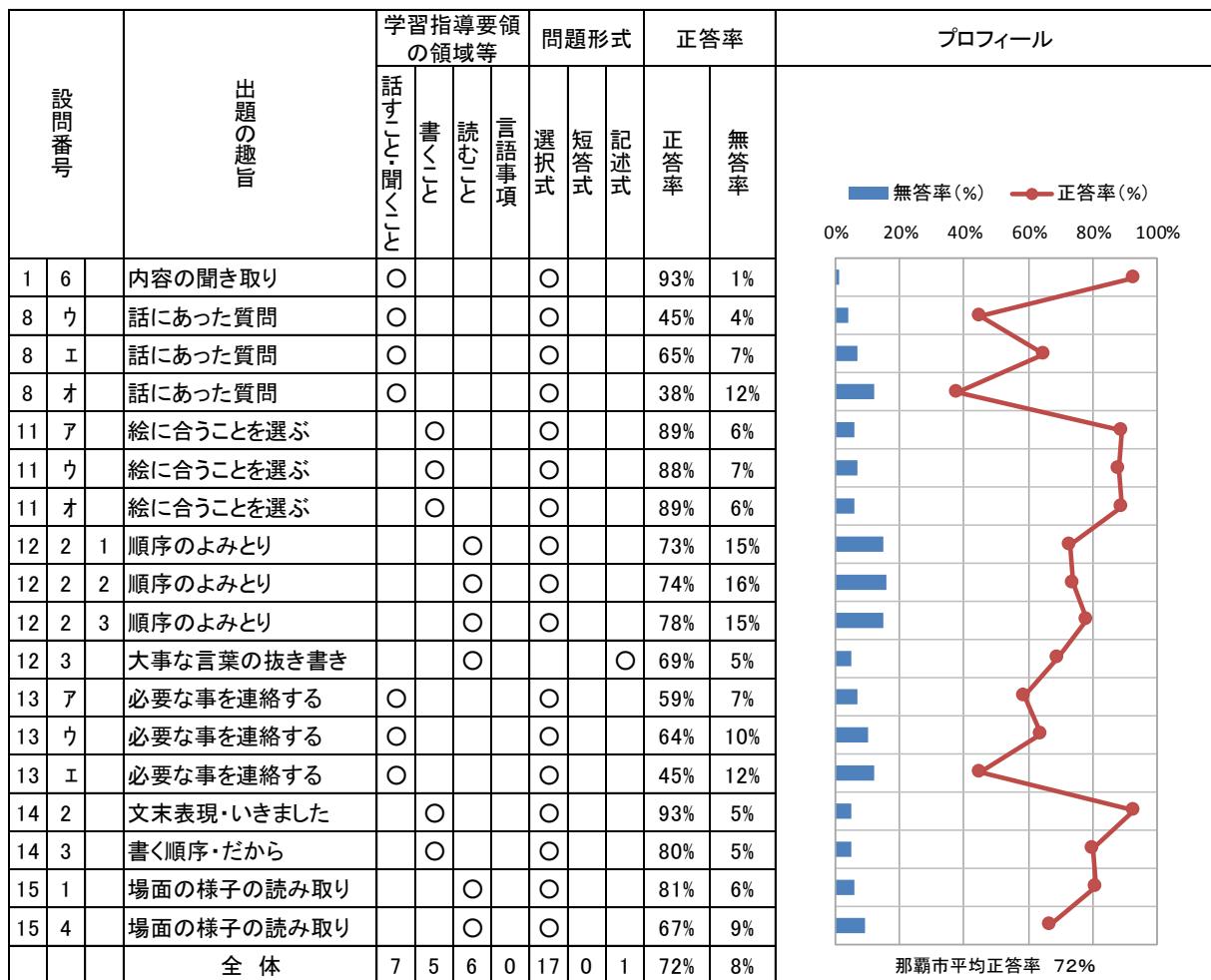
## 第2学年 国語 要素1

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】



## 第2学年 国語 要素2

## 問題別調査結果 正答率-無答率 比較 【要素2】



## 平成30年度那覇市到達度調査結果 那覇市立小学校全体

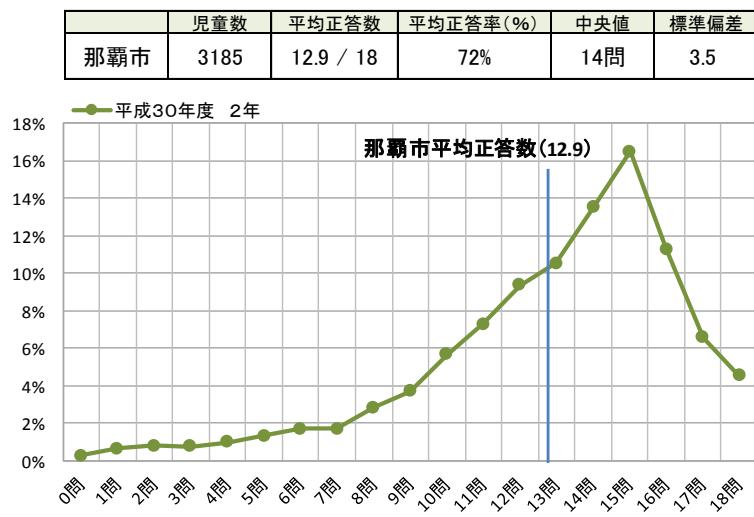
### 度数分布【要素1】



### 第2学年 国語

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	0	0.0%
1問	0	0.0%
2問	0	0.0%
3問	0	0.0%
4問	1	0.0%
5問	2	0.1%
6問	2	0.1%
7問	0	0.0%
8問	2	0.1%
9問	1	0.0%
10問	1	0.0%
11問	1	0.0%
12問	0	0.0%
13問	1	0.0%
14問	2	0.1%
15問	4	0.1%
16問	2	0.1%
17問	5	0.2%
18問	8	0.3%
19問	6	0.2%
20問	6	0.2%
21問	15	0.5%
22問	14	0.4%
23問	24	0.8%
24問	19	0.6%
25問	32	1.0%
26問	49	1.5%
27問	58	1.8%
28問	64	2.0%
29問	76	2.4%
30問	116	3.6%
31問	133	4.2%
32問	157	4.9%
33問	198	6.2%
34問	275	8.6%
35問	374	11.7%
36問	422	13.2%
37問	433	13.6%
38問	405	12.7%
39問	277	8.7%

### 度数分布【要素2】



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	9	0.3%
1問	21	0.7%
2問	26	0.8%
3問	25	0.8%
4問	32	1.0%
5問	43	1.4%
6問	55	1.7%
7問	54	1.7%
8問	90	2.8%
9問	118	3.7%
10問	180	5.7%
11問	232	7.3%
12問	298	9.4%
13問	335	10.5%
14問	430	13.5%
15問	525	16.5%
16問	359	11.3%
17問	209	6.6%
18問	144	4.5%

小学校2年国語において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が88%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が72%であった。要素1では、39問中、中央値が35問であり、満点に近い高得点に得点の分布が集中しており、基礎的な内容を確実に習得できている児童が多いと考えられる。要素2では18問中、中央値は14問であり、標準偏差(得点のばらつき)が3.5と小さな数値となっており、高得点の児童が多い分布となっている。

# 傾向の分析と課題となる問題

## ー小学2年 国語ー

### ●全体的な傾向●

#### 【要素1 知識・理解／技能】

##### 成果

- 平仮名・片仮名・漢字の読み書きをはじめ、基礎的な知識・技能は身についている児童が多い。特に、句読点のつけ方、長音、拗音など、表記に関する事項に関して、全国比で高値または同値であったので、定着していると考えられる。

##### 課題

- 話された内容の大事なところを理解し、聞くことについて課題がみられる（大問1：内容の聞き取り）。
- 簡単な文章（日記形式）を読み、登場人物の様子や行動を読み取ることについて課題がみられる（大問5：行動のよみとり）。

#### 【要素2 思考・判断・表現】

##### 課題

- 絵日記を書くのに必要な事柄を集め、構成を考えて書く問いでは、すべての小問の通過率が約90%と必要な事柄を選ぶことができる児童が多い（大問：11 絵に合うことを選ぶ）。

##### 課題

- 連絡をする際に、メモの中から話すのに必要なことを把握する場面で、特に今何を連絡するのかという概要を選ぶ（「何を作るか」を伝える）ことができていない児童が多い（大問13：必要な事を連絡する）。

#### 【指導にあたって】

- 「話すこと・聞くこと」では、相手が話したい内容のポイントを意識させながら聞くことに重点をおいた指導をしたい。
- 相手に何かを伝えるときには、伝えるべきことは何か、それを伝えるには何が必要か、相手にとって伝わりやすい言い方や書き方はどのような形なのかを考える習慣が身につくように指導したい。

### ●課題となる問題●

\* 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
1	内容の聞き取り	93	1	94	選択式

通過率：那覇市児童の通過率（%）

無答率：那覇市児童の無解答率（%）

全 国：全国児童の通過率（%）

形 式：解答形式

小学2年（小学1年学習内容）国語【知識・理解／技能】

## 問題：

- 【 第1・2学年 話すこと・聞くこと A (1) アエ 】**  
**【 第1・2学年 読むこと C (1) イウ 】**

## 問題內容：

- 1 身近なことから話題を決めて、話されている内容の大重要なことを聞くことができるかどうかを見る。  
5 登場人物の様子や行動を読み取ることができるかどうかを見る。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
1	1	内容の聞き取り	93	1	94	選択式
	2	内容の聞き取り	75	1	82	選択式
	3	内容の聞き取り	57	1	55	選択式
	4	内容の聞き取り	90	1	90	選択式
	5	内容の聞き取り	72	1	70	選択式
5	1	ア 行動のよみとり	71	12	74	選択式

誤答分析

- ・**1**は、自分の好きな花について話しているのを聞き、花についての話題であること、それぞれの人物の好きな花についての内容などが聞き取れているかを問うているが、その詳細が聞き取れていない誤りがみられる。特に、3では登場人物の好きな花の色について聞き取ることができていない児童が半数近くいる(通過率57%)。
  - ・**5**は、日記形式で書かれた文章から、人物の行動を適切に読み取れるかどうかを問うているが、日記の筆者がしたことについて正しく読み取ることができない。

## 指導に当たって

1

**要素1 基礎的な内容**

## 話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞く。 指導事項A 話すこと聞くこと(1)エ

- 話し手が自分に知らせたいことは何かを考えながら聞く。
- 事柄の順序を意識しながら聞き、話の内容を把握する。
- 自分とかかわらせて聞く。

**指導** → 簡単なメモのとり方

あ さ が お り	ま わ り リ ツ	チ ュ ー リ ッ ブ	そ う た と み	ひ ろ う と み	な お た と み
-----------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

誰か?  
(読む...登場人物)

どうした?

簡単な単語で

○正しく内容を聞き取るには、「冒頭」をよく聞くことも大切である。(この問いでは、話の冒頭で何の話をしているのか説明している)

- ・低学年「話すこと・聞くこと」では、身近なことや経験したことなどから話題を決めて話し、目的に応じて相手の話を聞き、自分とかわらせて聞くことが大切となる。

また、聞く際には、話されている内容の大  
事なことを落とさないように、興味を持って  
聞く姿勢も大切となる。また、「話し手が自分  
に知らせたいことは何かを考えながら聞く」  
ことも併せて指導するとよい。

- ・お話を内容を正しく聞き取るには、どのようなことが話されるのか冒頭をよく聞くことが大切である。例えば、この問い合わせの場面では、好きな花について話しているという説明が冒頭にされているので、誰がどんな花が好きかに注意するとよい。授業でも、今、何が話題となっているかを常に意識させたい。
  - ・詳細な内容でも、よく聞いていれば正しく答えることができる内容である。大切な内容は、メモをとるとさらに聞き漏らすことが少なくなるので、適切なメモの取り方を指導するのもよい。(上図参照)

**要素1 基礎的な内容**

**5**

◆ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。

◆ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。指導事項C 読むこと(1)イウ

**指導**

- 主語を自分でない他人に置き換える視点も必要となる。
- 誰が書いた文章なのか。○誰が何を感じているのか。
- 視点を常に意識させる読み方を心がける。
- 筆者の視点になることが重要。

**例（作文、意見文、感想文）**  
身近なクラスの人人が書いた文章を読み合うことで、その「視点」も得られやすい。また、気持ちも想像しやすいと考えられる。そのような活動等も通じ、「読む」ということに慣れさせたい。

- ・誰が書いた文章なのか、誰が何を感じているのかといった、視点を常に意識させるような読み方を心がけるようになしたい。自分ではない人が感じたり、行なったりしたことを読みとくには、筆者の視点になることが重要となる。

## 指導例

### 一分間スピーチ等の活動

- ・例えば、朝の活動等での一分間スピーチを行う。身近な話題を決め、スピーチの場面を設定し、質問をさせる。また、話し合う場面を設定し、話題に沿って質問をし合うと活動を行う。その際、話者が伝えることの中心をおさえ、聞いた内容に関連して、自分がもっと知りたいと思ったことを質問すればよいことを指導する。

### 少人数等の話合い活動

- ・話の内容を正しく聞き取る力を育てるためには、「自分の好きなものを紹介する」などテーマを決めて、二人一組などの少人数で会話し、相手の好きな物、なぜ好きなのかをメモをとりながら聞く活動などをしたい。例えば、作文や感想文など、身近なクラスの人人が書いた文章を読み合うことで、その視点が得られやすいことが考えられる。顔を知っているクラスメートが書いた文章を読むと、気持ちも想像しやすいと考えられる。そのようにして、「読む」ということに慣れるようにしたい。

## 小学2年（小学1年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題： 8 【1・2学年 話すこと・聞くこと A（1）イエオ（2）アイ】

問題内容：身近なことについて話された事柄を聞き、話題に沿って質問することができるかどうかを見る問題。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
8	ウ	話にあった質問	45	4	38	選択式
	エ	話にあった質問	65	7	63	選択式
	オ	話にあった質問	38	12	38	選択式

### 誤答分析

ア・カを選ぶ誤りが多い。イのように話題に関係のない選択肢は排除できているので、話題は捉えられていると考えられるが、すでに話されている内容を質問してしまう誤りをしている。

### 指導に当たって

8 小学2年(小学1年学習内容)国語【思考・判断・表現】

問題: 8 【1・2学年 話すこと・聞くこと A(1)イエオ(2)アイ】

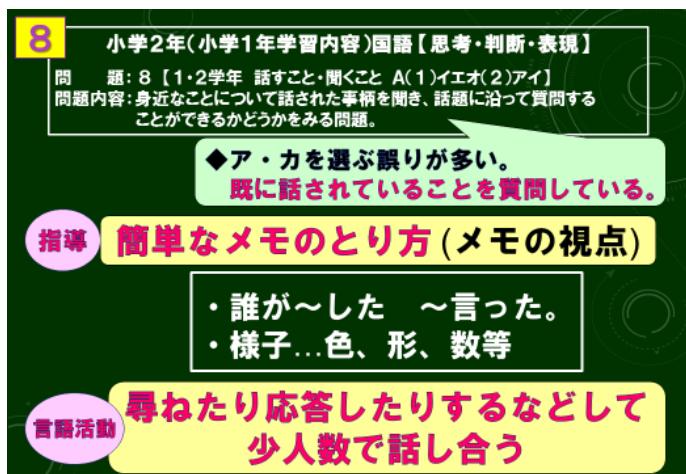
問題内容: 身近なことについて話された事柄を聞き、話題に沿って質問することができるかどうかを見る問題。

◆ア・カを選ぶ誤りが多い。  
既に話されていることを質問している。

**指導 簡単なメモのとり方(メモの視点)**

・誰が～した ～言った。  
・様子…色、形、数等

**言語活動** 尋ねたり応答したりするなどして少人数で話し合う



- 低学年の「話すこと・聞くこと」の中で、話し合いの指導では、お互いの考え方や立場などを尊重しながら集中して聞き、話題に沿って話し合うことが大切となる。
- 通過率を見ると、ほぼ全国と同様の通過率であるが、正答を選べる児童が4~6割であり、定着が十分とは言えない。
- 話の内容について簡潔にメモをとる訓練をすると、メモを見返して、既にわかっていることとまだわからないことが明確になり、既にわかっていることを聞いてしまうことを防ぐことができる。メモの取り方として、誰が～した、～言った、等の行動や色、形、数などの様子等、メモの視点を指導する。(上図を参照)

### 指導例

#### メモを取る活動

- 今回の問題のような素材を取り上げ、5分ほどの時間を持ってメモを書かせてみる。そうすると、メモを取る中で、「どんな形?」「どんな色?」「いくつ?」等、子どもたちから自然に質問が沸いている。その質問がメモを取る視点になるよう、指導を行う。

#### 尋ねたり応答したりするなどして少人数で話し合う活動

- 少人数の話合いでは、多人数での話合いに比べ、一人一人が発言する機会も多い。話し手と聞き手の距離も近く、分からぬことも質問したり応答したりしやすいので、機会を多く持つ。

## 小学2年（小学1年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題：

13【第1・2学年 話すこと・聞くこと A(1)イ(2)ウ】

問題内容：

連絡をする場面で、必要なことをきちんと話すことができるかどうかを見る問題。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
13	ア	必要な事を連絡する	59	7	61	選択式
	ウ	必要な事を連絡する	64	10	66	選択式
	エ	必要な事を連絡する	45	12	48	選択式

### 誤答分析

- 連絡をする際に、メモの中から話すのに必要なことを把握する場面で、特に「今何を連絡するのか」という概要を選ぶ（「何を作るか」を伝える）ことができていない。また、メモには書かれていない内容を選んでしまう誤りもみられる。

### 指導に当たって

13 小学2年（小学1年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題：13【第1・2学年 話すこと・聞くこと A(1)イ(2)ウ】

問題内容：連絡をする場面で必要なことをきちんと話すことができるかどうかを見る問題。

◆メモの中から話すのに必要なことを把握する場面で概要を選ぶ（「何を作るか」を伝える）ことができない。

◆メモに書かれていない内容を選んでしまう

**指導** 連絡する（伝える）視点  
・どんぐりやコマの知識でなく、こまを「つくる」には何が必要かを伝えなければならないということを理解していることが大切である。

例.連絡帳など必要事項を記入する際に、「どのような欄があるのか」「何のためにその欄があるのか」を理解させ、徐々に欄がなくても自分で考えてメモを書けるように指導したい。

**言語活動**

・遠足などの行事に必要なものや学習に使う持ち物については、児童自身が保護者に話す必要もある。そのときに、相手に適切に伝えなければ、必要なものを持ってくることができない。この設問では図工の時間でどんぐりごまを作るときに必要なものについて連絡する内容を適切に選ぶことができるかを問うているが、この場合、どんぐりやどんぐりごまについての知識を伝えるよりも、どんぐりこまを「つくる」には何が必要かを伝えなければならないということ

を理解していることが大切である。伝えなければいけないことは何かを常に意識させるように指導したい。

### 指導例

#### 連絡帳等を記入する活動

- 連絡する際、何が大切なことで、何を伝えればよいかを判断する力につけるには、連絡帳など必要事項を記入する際に、どのような欄があるのか、何のためにその欄があるのかを説明をするとよい。また、徐々にそのような欄がなくても自分で必要な項目を考えてメモを書けるようにして指導したい。また、それをもとにして伝えるなど練習していくとよいことを指導する。

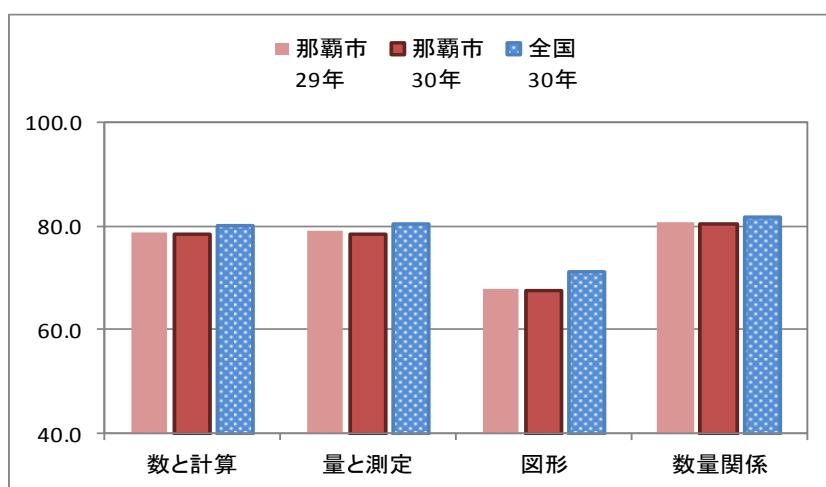
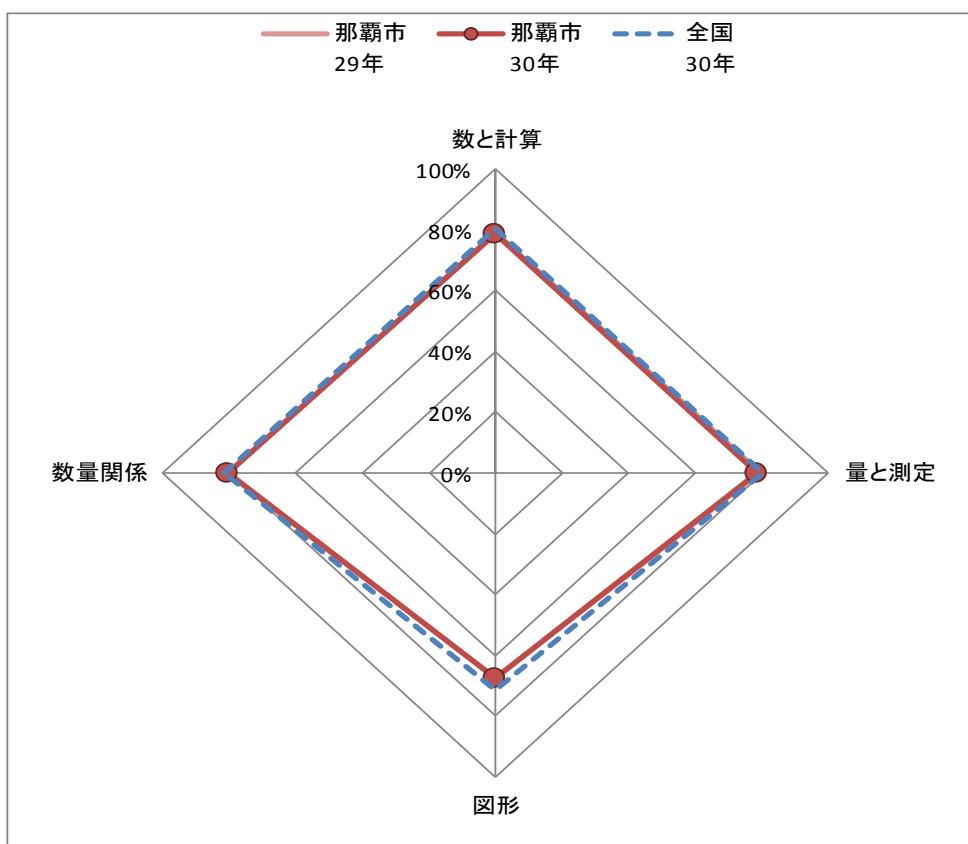


## 【第2学年 算数】

平成30年度那覇市到達度調査結果

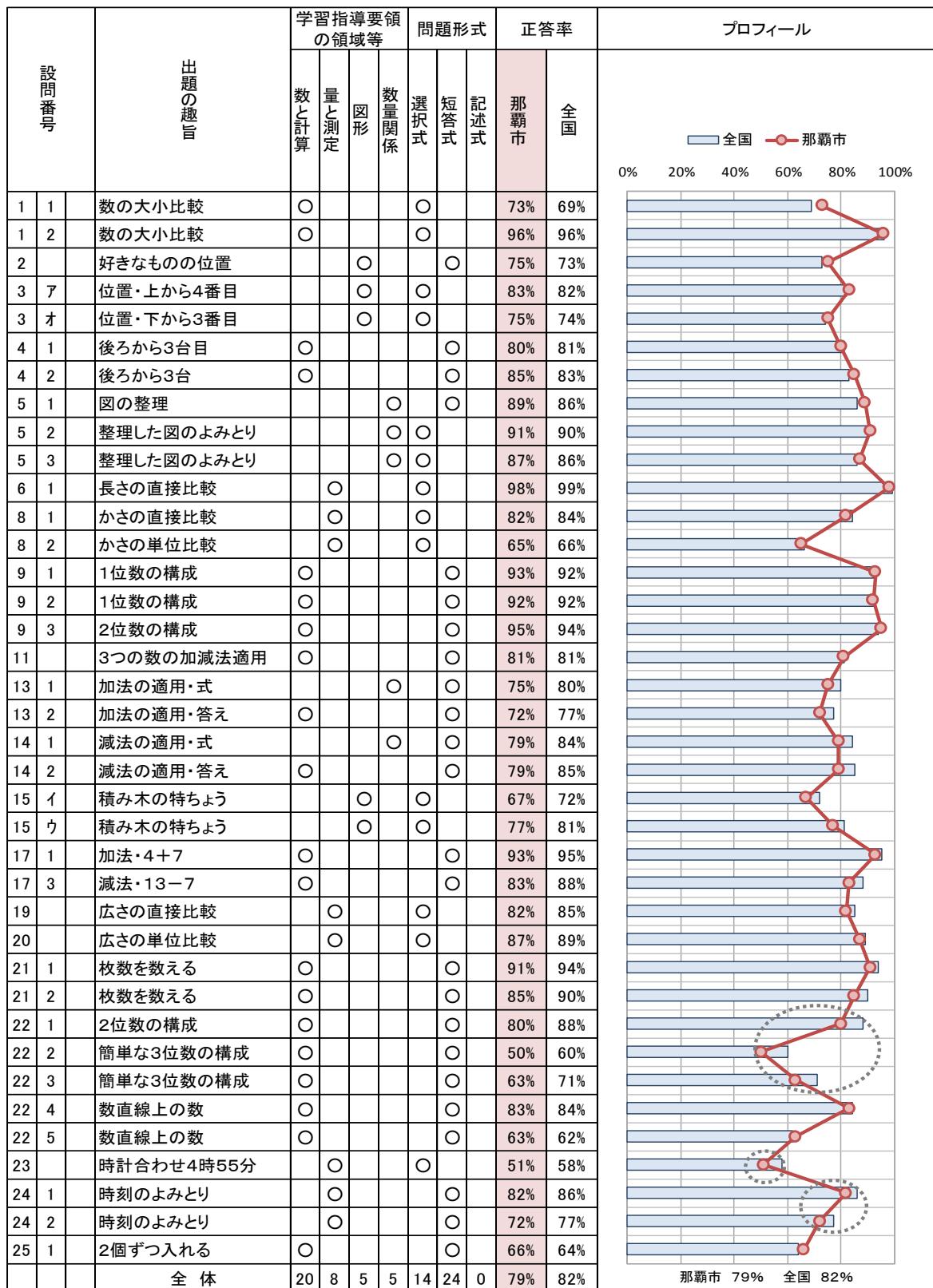
### 領域別結果（昨年度・全国との比較）

第2学年 算数	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
数と計算	78.7	78.4	80.1
量と測定	79.1	78.3	80.3
図形	67.7	67.6	71.2
数量関係	80.7	80.3	81.6



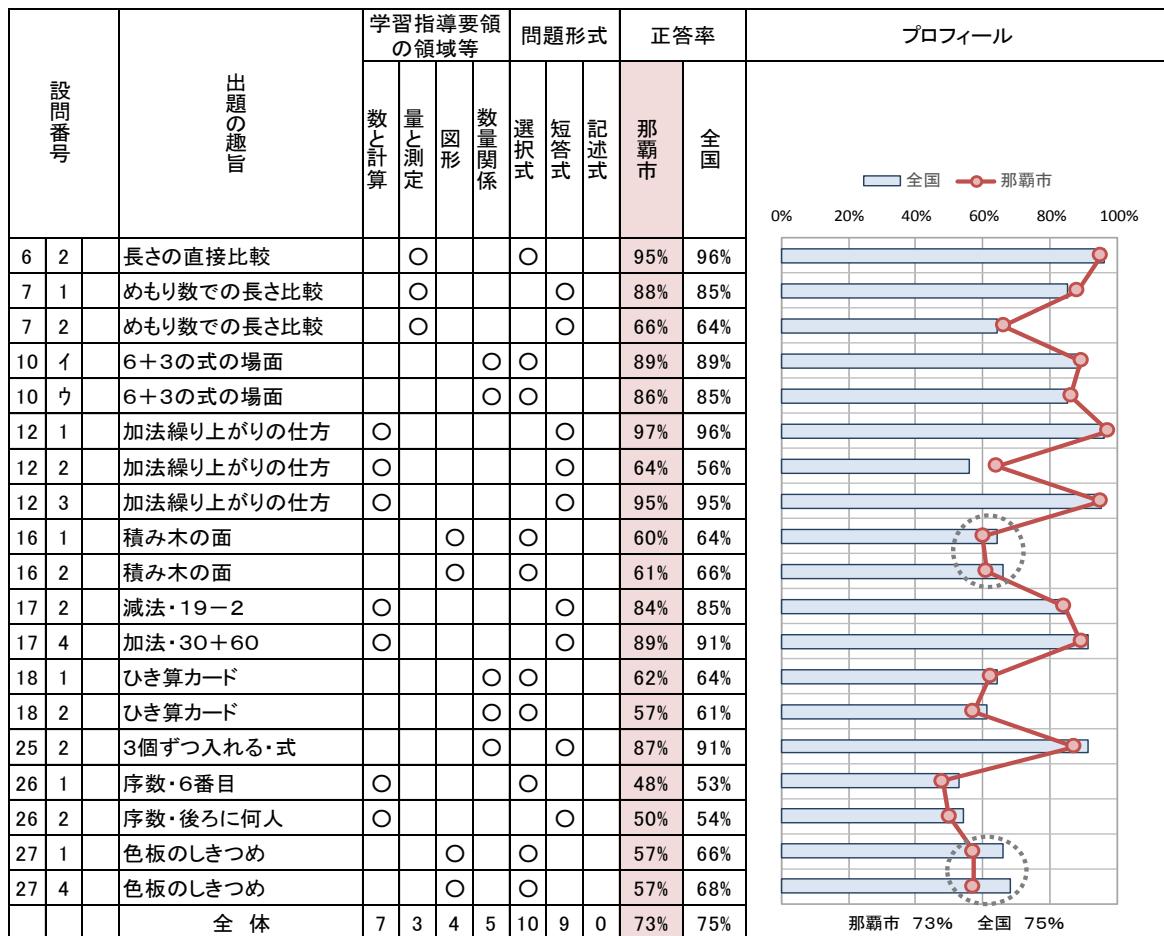
## 第2学年 算数 要素1

## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】



## 第2学年 算数 要素2

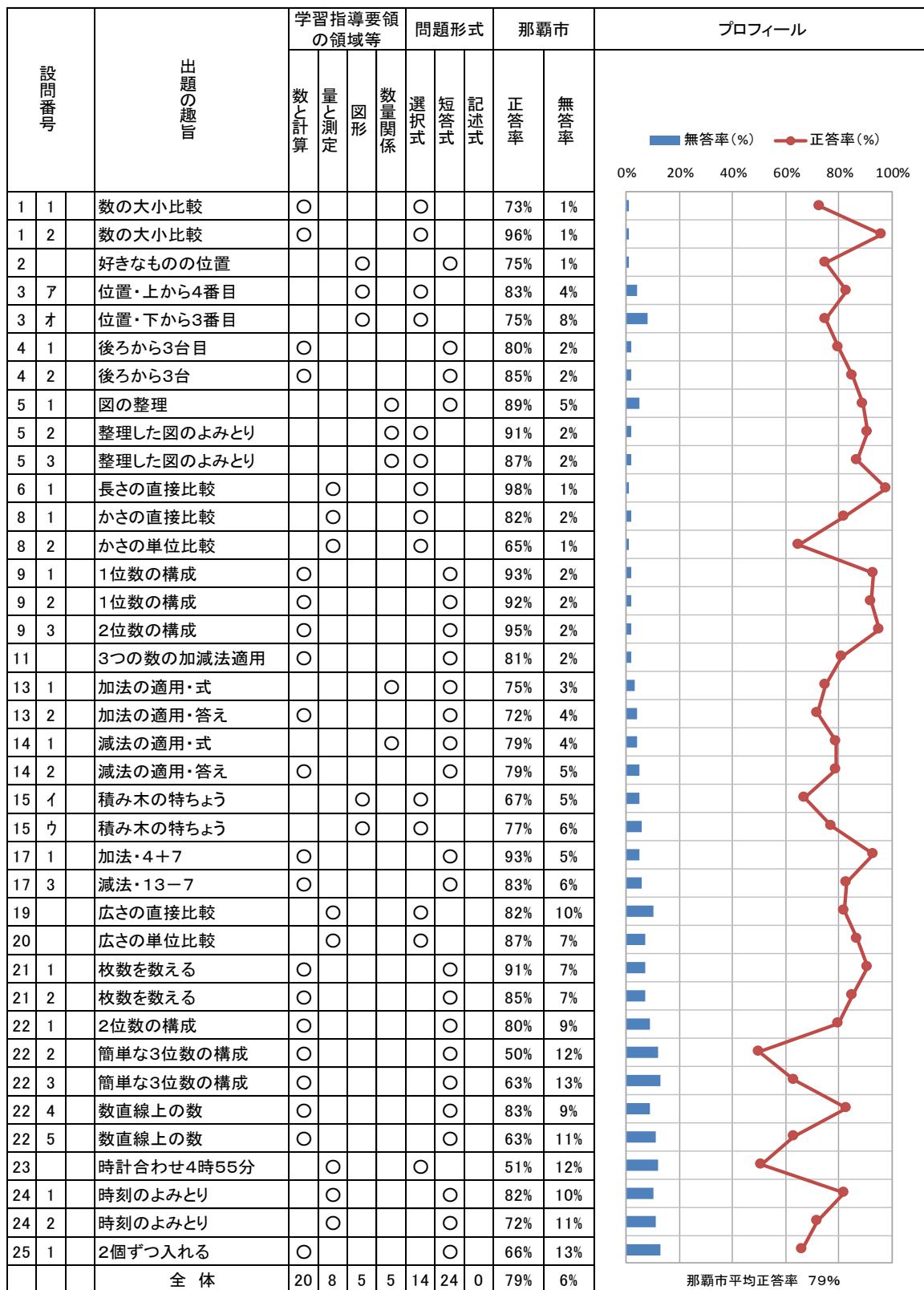
## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】



...課題となる問題として、考察コメントがあります。

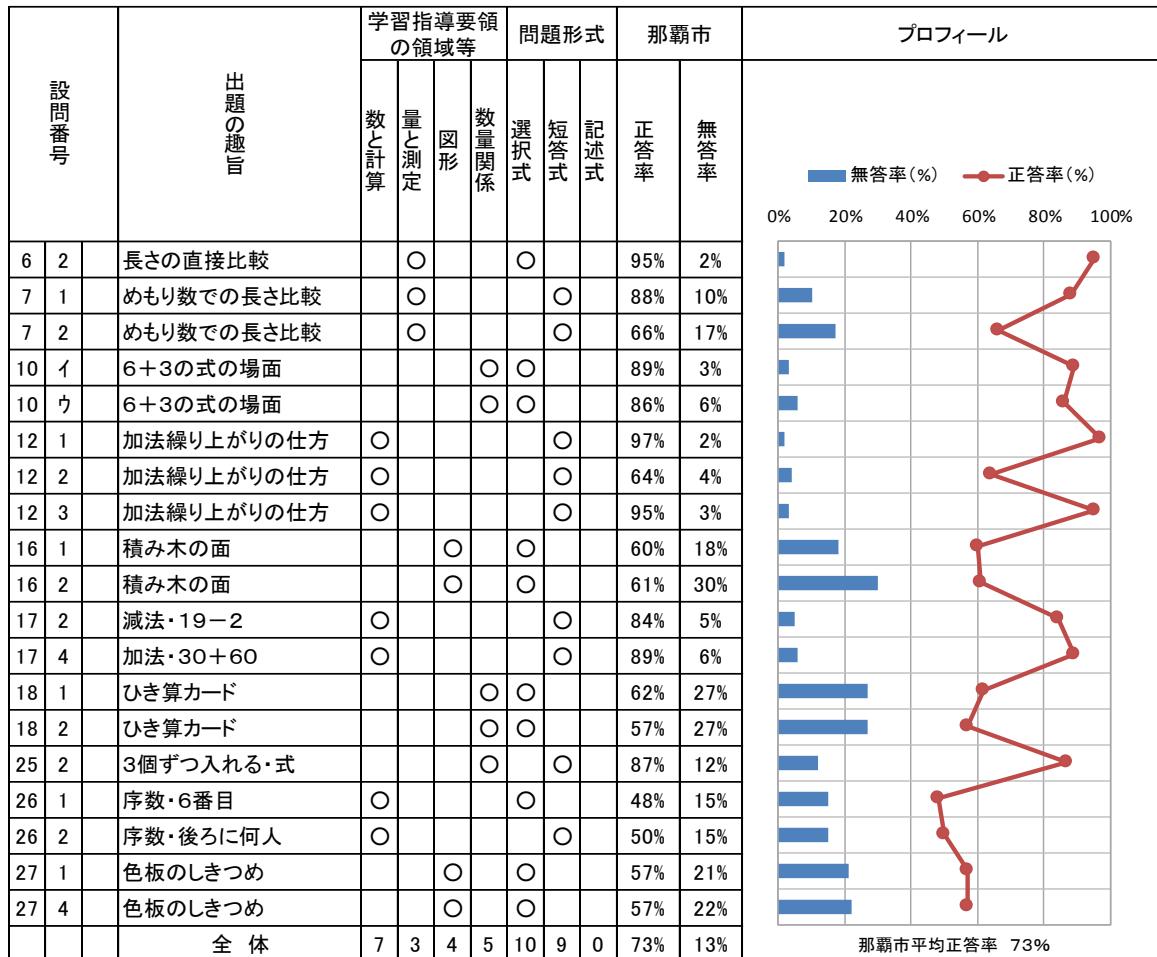
## 第2学年 算数 要素1

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】



## 第2学年 算数 要素2

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素2】



平成30年度那覇市到達度調査結果 那覇市立小学校全体

度数分布【要素1】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	3183	30.2 / 38	79%	32問	6.6

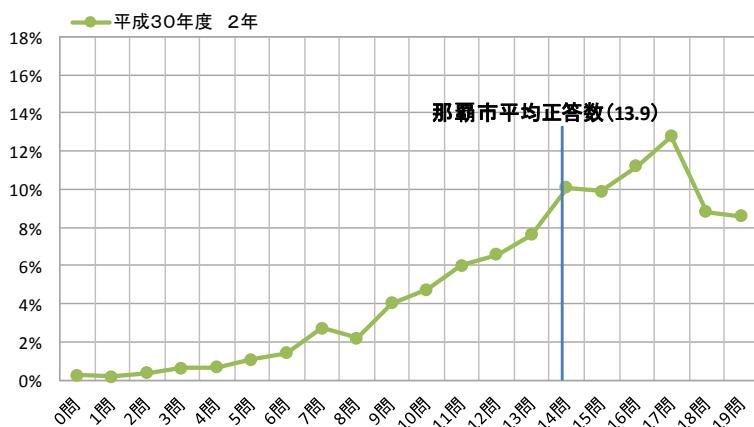


第2学年 算数

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	0	0.0%
1問	2	0.1%
2問	1	0.0%
3問	3	0.1%
4問	2	0.1%
5問	3	0.1%
6問	6	0.2%
7問	2	0.1%
8問	8	0.3%
9問	8	0.3%
10問	12	0.4%
11問	11	0.3%
12問	20	0.6%
13問	19	0.6%
14問	18	0.6%
15問	29	0.9%
16問	20	0.6%
17問	31	1.0%
18問	36	1.1%
19問	26	0.8%
20問	44	1.4%
21問	56	1.8%
22問	53	1.7%
23問	62	1.9%
24問	73	2.3%
25問	91	2.9%
26問	89	2.8%
27問	115	3.6%
28問	132	4.1%
29問	144	4.5%
30問	171	5.4%
31問	170	5.3%
32問	225	7.1%
33問	261	8.2%
34問	256	8.0%
35問	291	9.1%
36問	304	9.6%
37問	250	7.9%
38問	139	4.4%

度数分布【要素2】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	3183	13.9 / 19	73%	15問	3.8



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	9	0.3%
1問	6	0.2%
2問	12	0.4%
3問	20	0.6%
4問	22	0.7%
5問	34	1.1%
6問	45	1.4%
7問	87	2.7%
8問	70	2.2%
9問	128	4.0%
10問	151	4.7%
11問	192	6.0%
12問	209	6.6%
13問	243	7.6%
14問	321	10.1%
15問	315	9.9%
16問	357	11.2%
17問	407	12.8%
18問	281	8.8%
19問	274	8.6%

小学校2年算数において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が79%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が73%であった。要素1では38問中、中央値が32問であり、基礎的な内容を習得できている児童が多いと考えられる。要素2では、19問中、中央値が15問であり、1点刻みで少しづつ人数が増える広い分布となっている。それぞれの児童の課題を把握したい。

# 傾向の分析と課題となる問題

## ー小学2年 算数ー

### ●全体的な傾向●

#### 【要素1 知識・理解／技能】

- ・全体的には、通過率の平均が79%と、基礎的な内容を習得できている児童が多い。
- ・2位数や3位数の構成についての知識の問い合わせ(大問22の1～3)や、時刻の読み方を問う問題(大問23, 24)において、全国的な傾向より通過率が低く、また通過率50%以下と半数の児童しか正答できない小問もあり、課題がみられる。

#### 【要素2 思考・判断・表現】

- ・全体的には、通過率の平均が73%と、応用的な内容を習得できている児童が多い。
- ・積み木の面の問い合わせ(大問16)や色板のしきつめ(大問27)といった図形領域において、全国的な傾向より通過率が低く、課題がみられる。

#### 【指導にあたって】

- ・2位数や3位数の構成については、ブロックなどの具体物と数字の意味とを関連させながら、10や100の意味をきちんと理解させたい。
- ・時刻の読み方については、時計の模型を実際に動かす活動を通して、短針と長針の意味をおさえさせることが大切である。
- ・図形については、形や大きさに着目して積み木や色板の特徴を捉えさせていくことを通じて、平面図形や立体図形の素地となる力を養いたい。

### ●課題となる問題●

\*「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
22 1	2位数の構成	80	9	88	短答式

通過率：那覇市児童の正答率(%)

無答率：那覇市児童の無解答率(%)

全 国：全国児童の正答率(%)

形 式：解答形式

## 小学2年（小学1年学習内容）算数 【知識・理解／技能】

問題：

22 1～3【第1学年 数と式 A(1)オカ】

23 24【第1学年 量と測定 B(2)】

問題内容：

22 2位数の構成や簡単な場合についての3位数の表し方について理解しているかどうかを見る。

23 示された時刻を表している時計を、選ぶことができるかどうかを見る。

24 時刻を読み取ることができるかどうかを見る。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
22	1	2位数の構成	80	9	88	短答式
	2	簡単な3位数の構成	50	12	60	短答式
	3	簡単な3位数の構成	63	13	71	短答式
23		時計合わせ4時5分	51	12	58	選択式
24	1	時刻のよみとり	82	10	86	短答式
	2	時刻のよみとり	72	11	77	短答式

### 誤答分析

- 2位数や3位数の構成において、10の何個分という捉え方ができていない。
- 時刻を正しく読み取ることができない。特に、短針の位置がわかりにくい場面で誤りがみられる。

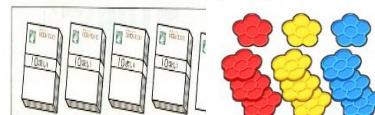
### 指導にあたって・指導例

#### 【2位数の構成】 【簡単な3位数の構成】

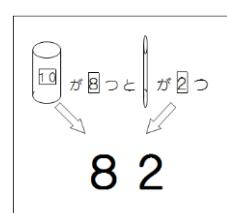
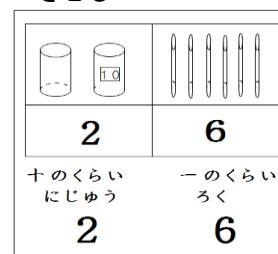
数の構成においては、10や100のまとまりで考えていくことを定着させたい。例えば、ブロックやおはじきを用いて、1が10個あるときと10が1個のときを視覚的にも結びつけると、10や100といったまとまりの数を理解しやすくなる。1個ずつ数えるのではなく、まとまりで捉えていくと数えやすかったり比べやすくなったりすることなど、10のまとまりとすることの良さも実感させることができるので、しっかりと定着させることが求められる。

#### 【時計の読み取り】

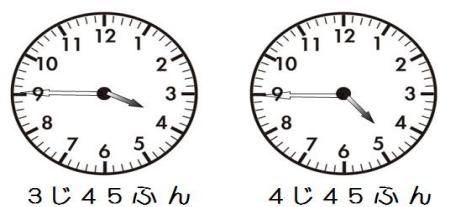
時刻の読み取りについては、短針と長針の役割をそれぞれ理解し、確実に読み取ることができるようにさせたい。また、「3時45分は3時よりも4時に近い」など、考えながら読み取るようにすることが大切である。日常生活の場面でも時計を見る習慣をつけさせ、時刻や時間を意識することで慣れさせていきたい。



おはじき、ブロック等を活用し、10や100のまとまりで考えることを定着させる



視覚的に数のまとまりを捉えさせる



日常生活場面で、意図的に問いかけるなど繰り返し時計を意識させる

## 小学2年（小学1年学習内容）算数 【思考・判断・表現】

問題：

16 【第1学年 図形 C (1) ア 算数的活動 (1) エ】

27 【第1学年 図形 C (1) ア 算数的活動 (1) エ】

問題内容：

16 面の形を写し取ってかいた絵から、どのような立体かを捉えることができるかどうかを見る。

27 同じ色板を4枚使ってできる形を見いだすことができるかどうかを見る。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
16	1	積み木の面	60	18	61	選択式
	2	積み木の面	61	30	64	選択式
27	1	色板のしきつめ	57	21	66	選択式
	4	色板のしきつめ	57	22	68	選択式

### 誤答分析

- ・積み木の面を写す問題では、使った積み木として円柱ではなく球を選ぶ誤りが多い。
- ・色板のしきつめについては、線を適切に図に書きこむことができていないことからくる誤りがみられる。

### 指導にあたって・指導例

#### 【積み木の面】

積み木などの立体に関しては、向きによって見え方が大きく異なるので、授業の中で本物の積み木を使って授業を行いたい。その中で、円柱と球など、形の似ているものに着目させて、共通点や相違点に気づかせたい。コンピュータを用いて、画面の中で動かしたり回転させたりするのも有効である。

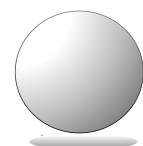
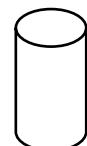
#### 【色板のしきつめ】

平面の活動においては、紙を形に切ったり、図に実際にかきこんだりすることが大切である。その上で、特徴を考えたり形を想像したりすることで理解を深めさせたい。

#### 【図形の学習】

図形の学習においては、教科書等で確認をするだけでなく、実際の活動の中で実物を取り扱うとよい。実物に触れて動かしたり回転させたりすることで、図形についての豊かな感覚を身につけさせたい。また、補助線を入れたり、しきつめたりしながら、形や大きさなど特徴を捉えるための見方があることを理解することが大切である。特徴をもとに比べたり、分類したりする活動を通して、平面図形や立体図形の素地となる力を養いたい。

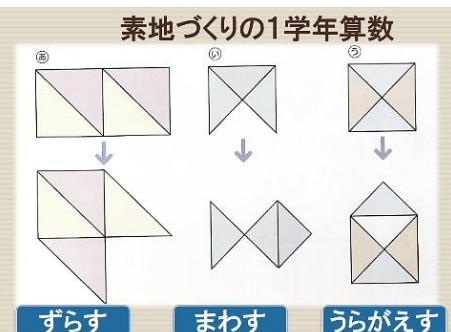
立体を多面的に見る見方を操作的な活動で身につける



共通点は？

相違点は？

- ① 比べ合う活動を通じ様々な視点で見る。
- ② 視覚教材の活用

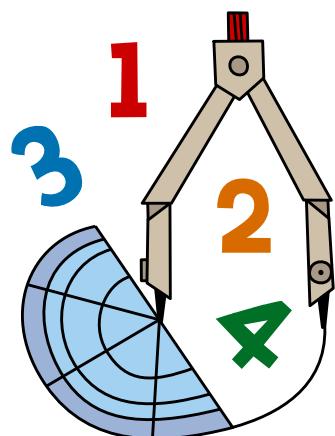
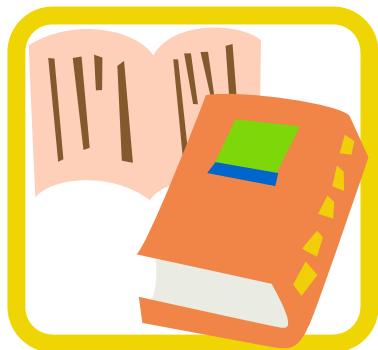


- ① 色板を操作する活動
- ② 図中に線を入れる活動 など

平成 30 年度  
標準学力調査

# 第 4 学年

## 国語・算数

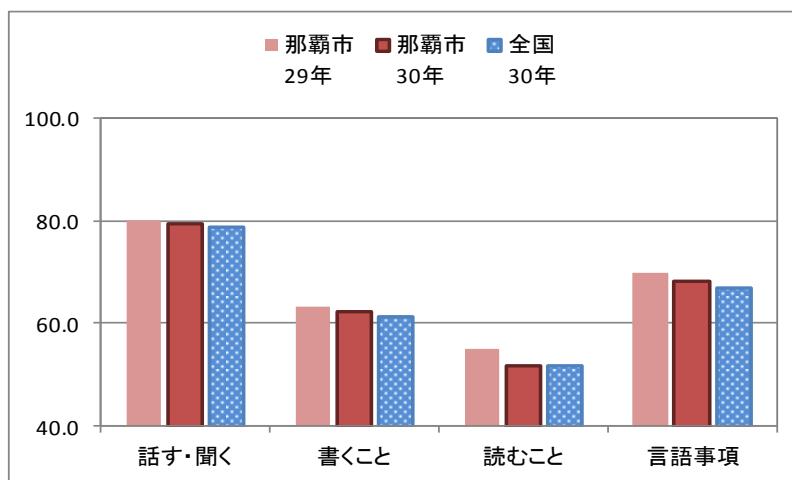
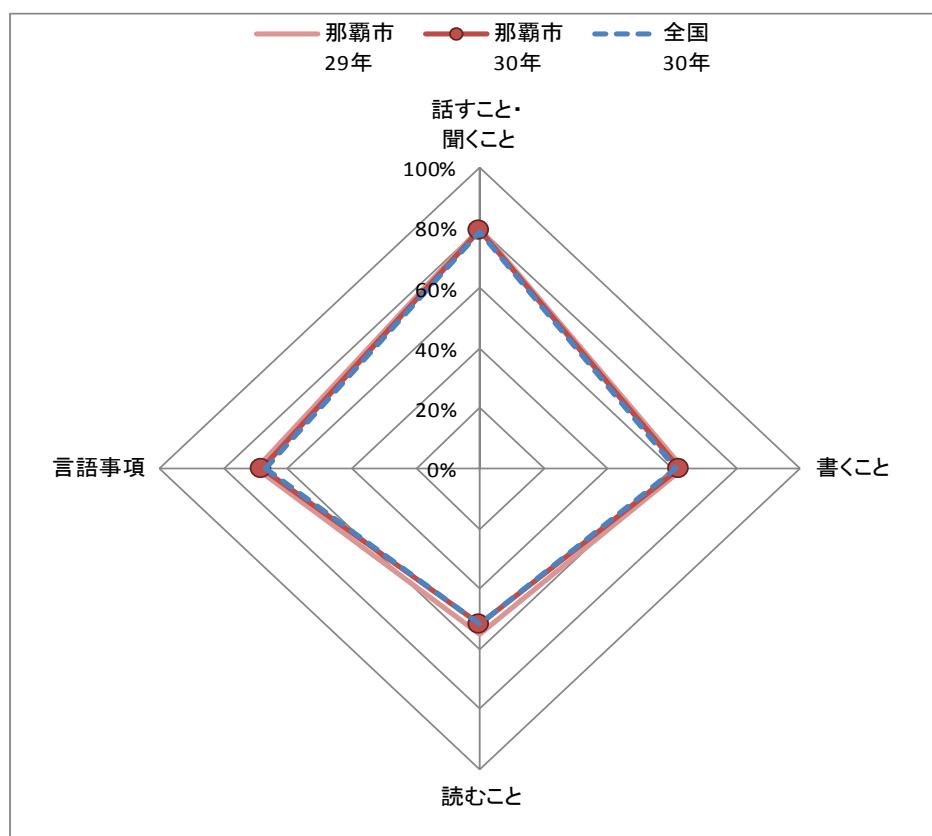


## 【第4学年 国語】

平成30年度那覇市到達度調査結果

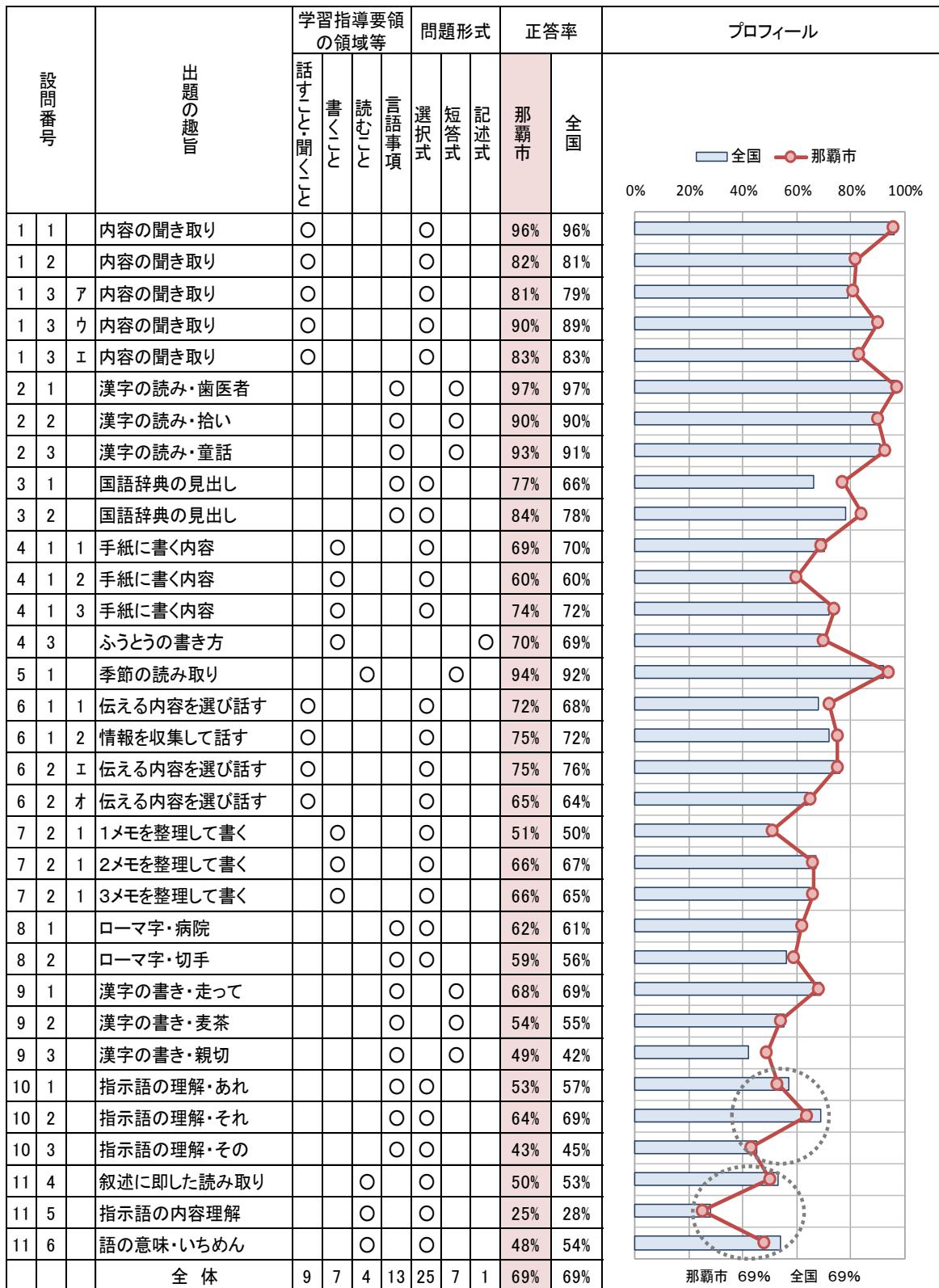
### 領域別結果（昨年度・全国との比較）

第4学年 国語	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	79.9	79.3	78.8
書くこと	63.4	62.1	61.2
読むこと	55.0	51.8	51.9
言語事項	69.9	68.2	67.0



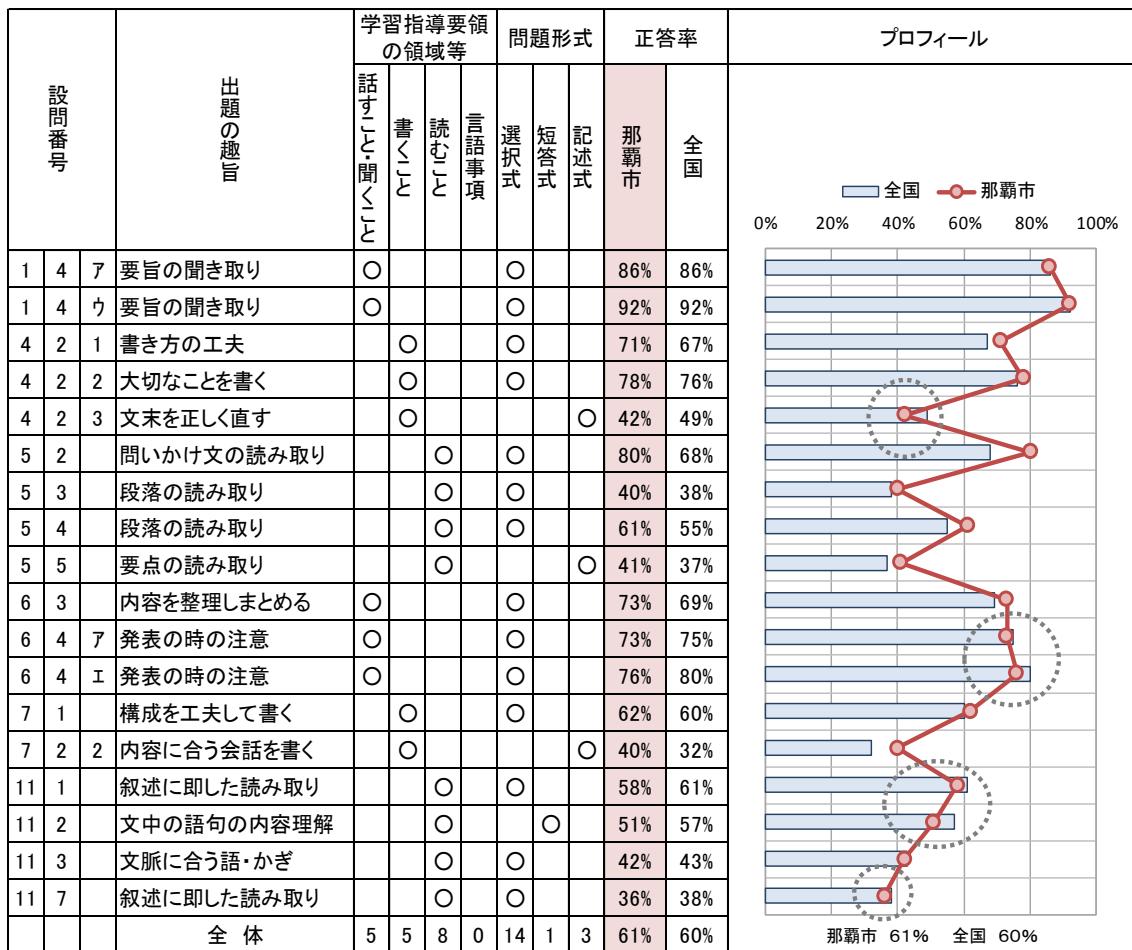
## 第4学年 国語 要素1

## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】



## 第4学年 国語 要素2

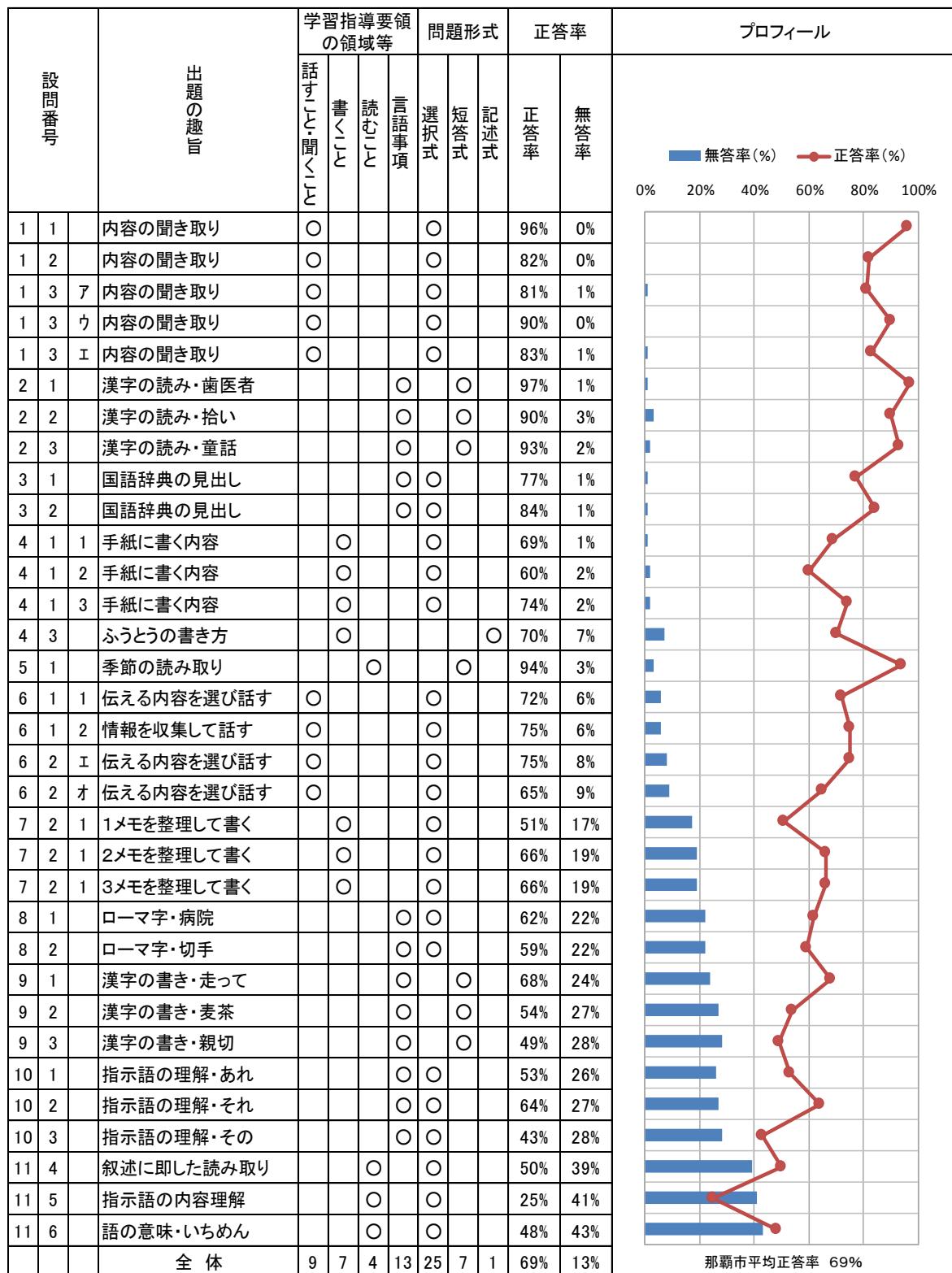
## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】



…課題となる問題として、考察コメントがあります。

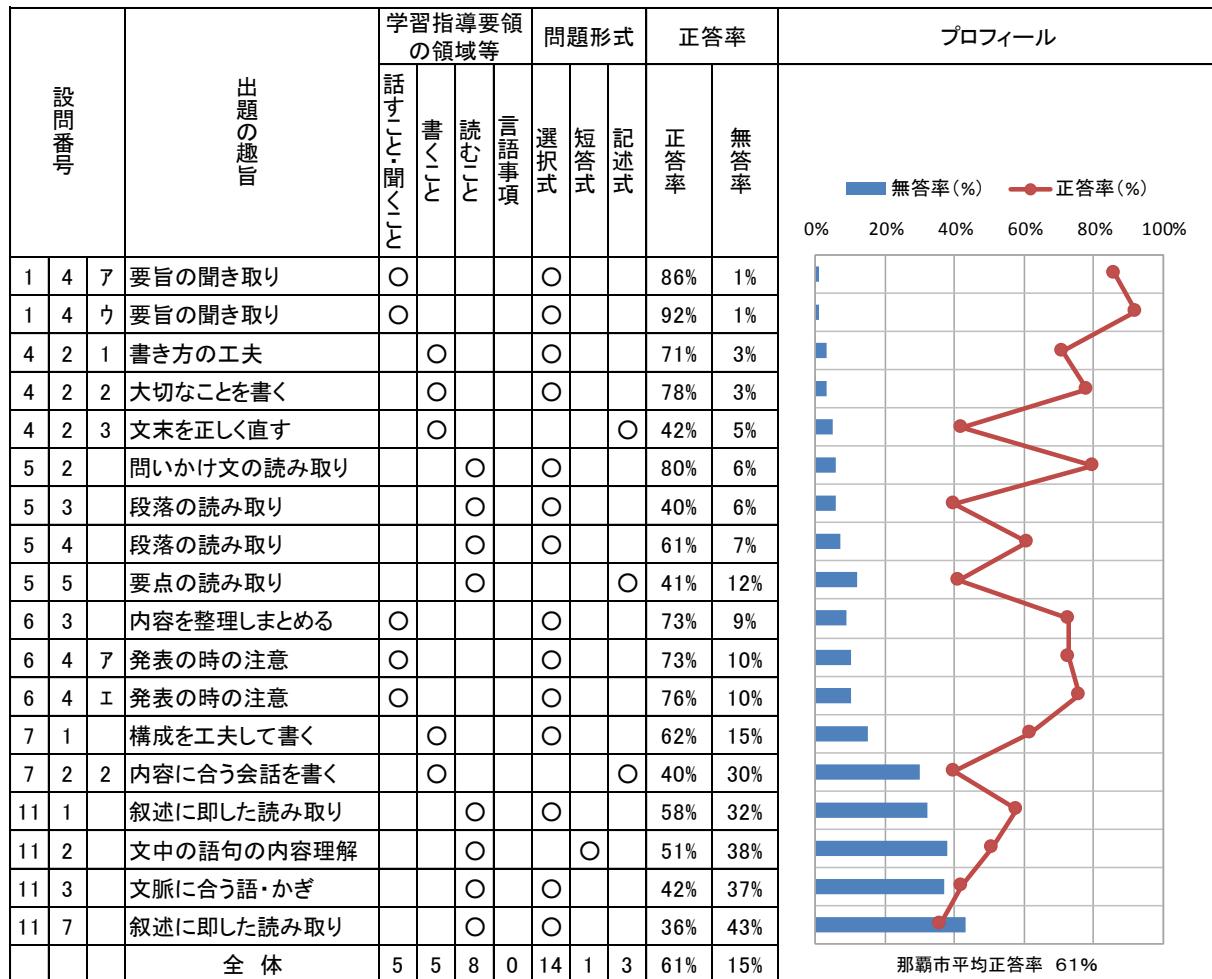
## 第4学年 国語 要素1

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】

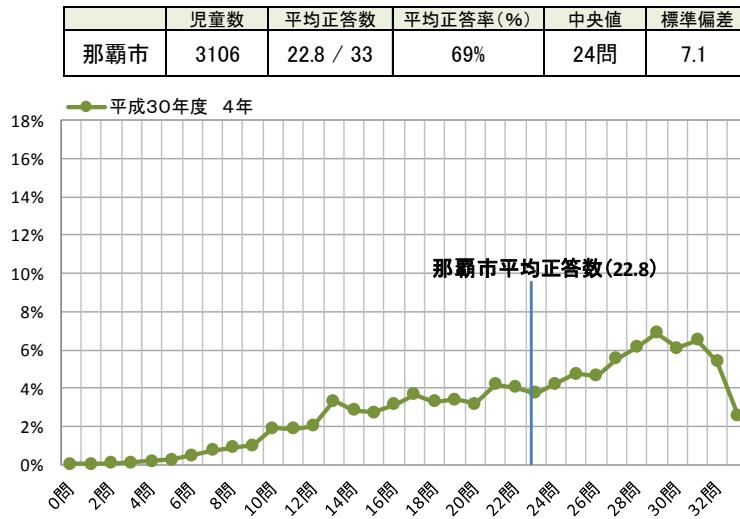


## 第4学年 国語 要素2

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素2】



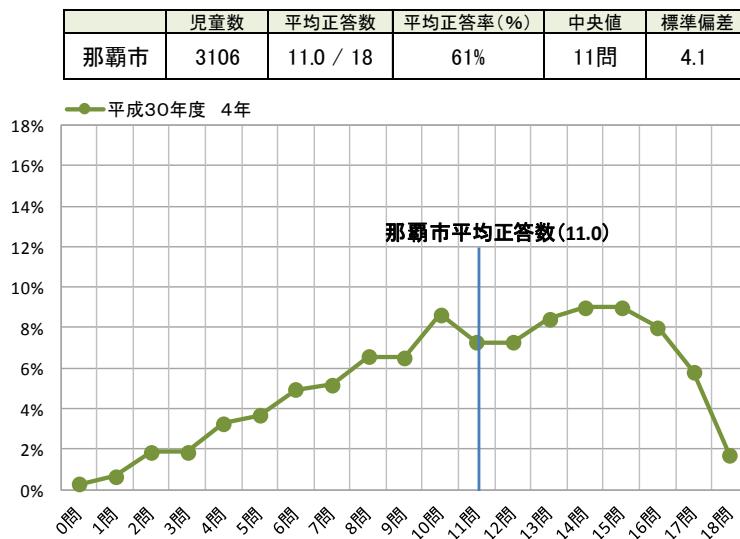
## 度数分布【要素1】



## 第4学年 国語

正答数	正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))	
	那覇市	人数
0問	1	0.0%
1問	1	0.0%
2問	2	0.1%
3問	3	0.1%
4問	6	0.2%
5問	8	0.3%
6問	15	0.5%
7問	23	0.7%
8問	28	0.9%
9問	32	1.0%
10問	59	1.9%
11問	58	1.9%
12問	63	2.0%
13問	103	3.3%
14問	88	2.8%
15問	85	2.7%
16問	98	3.2%
17問	114	3.7%
18問	102	3.3%
19問	106	3.4%
20問	99	3.2%
21問	130	4.2%
22問	126	4.1%
23問	116	3.7%
24問	132	4.2%
25問	148	4.8%
26問	144	4.6%
27問	172	5.5%
28問	191	6.1%
29問	214	6.9%
30問	190	6.1%
31問	202	6.5%
32問	168	5.4%
33問	79	2.5%

## 度数分布【要素2】



正答数	正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))	
	那覇市	人数
0問	8	0.3%
1問	20	0.6%
2問	58	1.9%
3問	58	1.9%
4問	102	3.3%
5問	114	3.7%
6問	153	4.9%
7問	161	5.2%
8問	204	6.6%
9問	203	6.5%
10問	269	8.7%
11問	226	7.3%
12問	226	7.3%
13問	262	8.4%
14問	280	9.0%
15問	280	9.0%
16問	249	8.0%
17問	181	5.8%
18問	52	1.7%

小学校4年国語において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が69%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が61%であった。要素1では、33問中の中央値が24問、要素2では、18問中の中央値は11問であった。要素1の標準偏差が7.1、要素2の標準偏差が4.1といずれも得点の散らばりが大きい分布となっており、習得の程度に差がある傾向がみられる。それぞれの児童の課題を発見し、特に低得点の児童には基礎的な内容を確実に習得させたい。

# 傾向の分析と課題となる問題

## ー小学4年 国語ー

### ●全体的な傾向●

#### 【要素1 知識・理解／技能】

##### 成果

- 「話すこと・聞くこと」の聞き取り問題は、全体的に通過率が高く、また全国的な傾向より通過率が高い小問も多く、内容を正しく聞き取ることができており望ましい状態にあると考えられる。  
(大問1：内容の聞き取り)
- 国語辞典の基本的な使い方については、全国的な傾向より通過率が高く、定着がよいと考えられる。  
(大問3：国語辞典の見出し)

##### 課題

- 指示語の内容をとらえる問題(大問10・11)で、通過率が低く、課題がみられる。

#### 【要素2 思考・判断・表現】

##### 課題

- 「読むこと」では、説明文の段落の構成を読み取り、適切な内容理解をすることにおいて、全国より通過率が高い(大問5)が、物語文において、叙述を基に内容を理解することに課題がみられる(大問11)。
- 「話すこと・聞くこと」で、発表で気をつけたい点についての理解において、全国的な傾向より通過率が低く、課題がみられる(大問6)。

#### 【指導にあたって】

- 調べたことを適切に相手に伝えるには、相手の立場になって話す構成を考える習慣を身につけさせたい。
- 文章を読む際には、指示語によって言い換えられている言葉を適切に読み取ることが内容理解の上で重要な。指示語を的確にとらえる力を伸ばしたい。
- 後半の無答率が高い。一問一問の解答に時間をかけすぎていることも考えられる。全体的な見通しを持って作業する力も養いたい。

### ●課題となる問題●

\* 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
10 1	指示語の理解・あれ	53	26	57	選択式

通過率：那覇市児童の通過率 (%)

無答率：那覇市児童の無解答率 (%)

全 国：全国児童の通過率 (%)

形 式：解答形式

## 小学4年（小学3年学習内容）国語 【思考・判断・表現】

問題： 4-2-3 【3・4学年 書くこと B (1) エ (2) エ】

問題内容：相手や目的に応じ、文章の常体と敬体との違いに注意し、文章の間違いを正すなどして、案内状などの手紙を書くことができるかどうかを見る。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
4 2 3	文末を正しく直す	42	5	49	記述式

### 誤答分析・指導にあたって

- 常体を正しく敬体になおすことができていない。
- 手紙を書く際には、形式にのっとって書くことが必要になるが、相手に応じて書き方を考えることにも注意する必要がある。特に目上の方などに敬体を使って文を書くことができることが大切となる。自分が書いた文章を読み返す際には必ず、文末が敬体または常体のどちらかに統一されていることを確認させるようにしたい。同時に、現在形や過去形の区別にも注意させたい。

課題

文章の敬体と常体との違いに注意しながら書く。  
目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書く  
指導事項B 書くこと(1)エ(2)エ

常体を正しく敬体に直すことができない  
(課題…常体と敬体が混在)

指導

「誰に」…「相手意識」  
「何のために」…「目的意識」

・読み直して、文末を敬体・常体に統一  
・現在形・過去形の区別も注意

言語活動

日頃からお礼の手紙を書く活動

### 指導例

#### お礼の手紙を書く活動

- 日頃から、お礼の手紙や葉書を書くと言った活動を取り入れ、形式にのっとって書く経験を日常的にさせるようにしたい。その際に、返事（または感想）をいただいた場合には、掲示や学年便りなどで児童に紹介することで、手紙を書くことの良さ、楽しさを実感させたい。また、手紙を書く際には、「誰に」「なんのために」書くのか、という「相手意識」「目的意識」をしっかりと持たせてから書かせるようにしたい。

## 小学4年（小学3年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題：

6【第3・4学年 話すこと・聞くこと A（1）アイウ（2）ア】

11【第3・4学年 読むこと C（1）ウ】

問題内容：

6 関心のあることから話題を決め、筋道を立てて話すことができるかどうかを見る。

11 登場人物の気持ちやその変化、情景などについて叙述を基に想像して読むことができるかどうかを見る。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
6	4	ア	発表の時の注意	73	10	75	選択式
	4	エ	発表の時の注意	76	10	80	選択式
11	1		叙述に即した読み取り	58	32	61	選択式
	2		文中の語句の内容理解	51	38	57	短答式
	7		叙述に即した読み取り	36	43	38	選択式

### 誤答分析

- 6-4は、調べたことを発表するときに気をつけるとよいことを問うているが、「調べたことを調べた順で発表する」や「いろいろ伝えるために速く話す」を選ぶ誤りは、聞いている相手の立場に立つことの視点が弱い。
- 11-2 物語文で登場人物の心情について正しく読み取れていない。また、文章中に出てくる「にもつ」の内容について8字で抜き出すことができておらず、物語の中で大切なことがおさえられていない。

### 指導例・指導にあたって

#### 調べたことを発表する活動

- 自分の調べたことを発表する機会を設けて、実際に発表させたい。まずは少人数で発表し合い、発表を聞いて自分は何がわかったのか、発表した本人が伝えたかったことと同じなのかなどを共有させたい。自分の本意とは異なる伝わり方をしたり、いちばん伝えたかったところが聞き手の印象に残らなかったりする場合

**課題** 小学4年（小学3年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題題：6-4  
問題内容：関心のあることから話題を決め、筋道を立てて話すことができる  
かどうかを見る問題

**指導**

○自分の調べたことを発表する機会  
・少人数で発表し合う（共有）  
⇒自分は何がわかったのか?  
⇒発表した本人が伝えたかったことと同じなのか?  
⇒自分の本意とは異なる伝わり方  
(いちばん伝えたかったところが聞き手の印象に残らなかったりする場合)

**誤答：**  
「調べたことを調べた順で発表する」  
「いろいろ伝えるために速く話す」  
◆聞いている相手の立場に立つことの  
視点が弱い。

・お互いに感じたことを伝え合う  
・その意見を基に修正  
◆改めて別の聞き手に発表し、  
反応がどう変化したかを実感させる

がある。お互いに感じたことを伝え合い、その意見を基に修正し、改めて別の聞き手に発表し、反応がどう変化したかを実感させるとよい。

### 様々な物語文を読む活動(並行読書等)

- 様々な物語文を利用して、意識的に登場人物の心情を考えさせたい。例えば、登場人物の心情を表していると考えられる部分をそれぞれ考えさせて、その後話し合い、自分が読み取ったことや他の人が挙げた部分からはどんな心情が考えられるかを話し合いたい。様々な視点を得て、作品から心情の表現を学ぶとともに、身近な他者からも多様な心情を理解できるようにさせたい。物語文には登場人物の心情が描かれる場面があるが、情景などや直前の行動に象徴的に表現されるなど、描かれ方は様々である。多くの作品に触ることで、心情をどのように読み取り理解したらよいかを体験的に理解させたい。

**課題**

小学4年(小学3年学習内容)国語【思考・判断・表現】  
問 题: 11-1・2・7  
問題内容: 登場人物の気持ちの変化、情景などについて、指示語や情景に関する叙述を通して、適切な把握ができるかどうかを見る問題

**正解: 古いかたのつくえ(8文字)**  
◆文章中で出てくる「にもつ」の内容について8字で抜き出すことができておらず、物語の中で大切なことがおさえられていない。  
◆物語文で登場人物の心情について正しく読み取れていません。

**指導**

●様々な物語文を利用して、  
意識的に登場人物の心情を考えさせる。  
⇒話し合いを通して、自分が読み取ったところや  
他の人が挙げた部分など**様々な視点**を得る。

◆◆作品から**心情の表現**を学ぶ  
◆◆身近な**他者**からも**多様な心情**を理解する



## 小学4年（小学3年学習内容）国語【知識・理解／技能】

問題：

10【第3・4学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（ク）】

11【第3・4学年 読むこと C（1）ウ】

問題内容：

10 指示語の内容を正しく捉えたり、使ったりすることができるかを見る。

11 登場人物の気持ちの変化、情景などについて、指示語や情景に関する叙述を通して、適切な把握ができるかどうかを見る。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
10	1		指示語の理解・あれ	53	26	57	選択式
	2		指示語の理解・それ	64	27	69	選択式
	3		指示語の理解・その	43	28	45	選択式
11	4		叙述に即した読み取り	50	39	53	選択式
	5		指示語の内容理解	25	41	28	選択式
	6		語の意味・いちめん	48	43	54	選択式

### 誤答分析・指導にあたって

**課題**

小学4年（小学3年学習内容）国語【知識・理解／技能】**要素1 基礎的な内容**

問題：10-1・2・3  
問題内容：指示語の内容を正しく捉えたり、使ったりすることができるかを見る問題

問題：11-4・5・6  
問題内容：登場人物の気持ちの変化、情景などについて、指示語や情景に関する叙述を通して、適切な把握ができるかどうかを見る。

**正解：あれ 答案：これ  
あれ…遠いものを指す これ…近いものを指す**

**正解：その 答案：この  
二文…前と後ろの文の関係  
その…過去、この…現在**

**「そこ」とはどこのこと?  
「ひきだしの中」  
◆文と文との関係などを理解できていない。**

**「まもらなければならない」  
こととは?  
「ひとりになつたら、  
ひきだしをあけること」  
◆指示語そのものは用いられていない。前の文に出てきた内容の何を指しているか把握できていない。**

・10-1でア、3でウを選ぶ誤りが多い。1は、遠いものと指す指示語として正解の「あれ」ではなく、「これ」を選ぶ誤り、3は、二文ある文のうち、前の文（過去）と後の文（現在）の関係を正しく捉えられていない誤りである。

・11-4の文章中の「まもらなければならないこと」は何かの問題についても、指示語そのものは用いられていないものの、前の文に出てきた内容のうち何を指しているかを問うている。これに正答できない児童は同様の傾向が考えられる。

- ・[11]-5は、指示語の内容についての問い合わせはあるが、文章の読解力が問われる問題である。最後の文章題であるため無答率も高いが、解答している率から考えても通過率が低く、文章の中で指示語が何を指しているか、文と文との関係などを正しく理解できていないと考えられる。
- また、この部分は文中で、現実とファンタジーの交錯が始まる場面であるため、その理解ができていないことも考えられる。

**改善** 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解する。  
指導事項 伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項(ク)

**要素1 基礎的な内容**

**指導**

○読みの指導の中で、  
段落相互の関係を端的に示す手がかりであることを指導。

○文章を書く様々な機会をとらえて、  
文脈に沿って指示語や接続語の役割を理解し、使うことを指導。

○問題 11-5 指示語の内容理解 無答率-41%  
現実とファンタジーの交錯が始まる場面  
何を指しているか明確でない場合は、直前の内容と指示語を置き換えてみる。意味が通るか考えられるよう指導。

**例（雑誌、新聞）** 短い文で情報を伝える文章を利用するとよい。文章中にある指示語に○をつけるなどして、指示語について意識させて、具体的にそれらの指示語が何を示しているかを考えさせるとよい。

・指示語の問題ではすぐ前の文章から答えを探して終わりにしてしまいがちになるが、この問題のように、一段階深い理解が必要になる指示語もある。そのため、指示語を置き換えてもじっくりこない場合は、最後まで文章を読み通し、文章全体を理解した上で、もう一度指示語が指すものを考えるようさせることも指導したい。

## 指導例

### 文章を並び替える活動

- 一つの文章を段落単位でバラバラにしたものを作成する。(その際、段落の始まりに指示語があるものを選ぶ)。接続語や指示語にも注目して並び替えを行っていく。最後に文章を正しく並び替えた後に、指示語による文章のつながりなどを確認すると、理解を促進できる。

### 雑誌・新聞を活用した活動

- 雑誌や新聞など、短い文で情報を伝える文章を利用するとよい。文章中にある指示語に○をつけるなどして、指示語について意識させて、具体的にそれらの指示語が何を示しているかを考えさせるとよい。

## 国語の授業での大切な指導> ⇒ 語彙

**語彙**

課題…小学校低学年の学力差の大きな背景には、語彙の量と質の違いがある。

小学校学習指導要領解説 国語編 「知識及び技能」(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

**低学年…身近なことを表す語句**  
日常生活や学校生活で用いる言葉、周囲の人について表す言葉  
事物や体験したことの表現

**中学年…様子や行動、気持ちや性格を表す語句**  
事柄や人物などの様子や特徴を表す語句  
人物などの行動や気持ち、性格を表す語句

**高学年…思考に関わる語句**  
「しかし」「要するに」「考える」「だろう」「～は～より…」「～は～に比べて…」複数の情報を比べる  
「～が～すると、…」「～になった原因を考えてみると」の原因と結果の関係について述べる場合の言い方で用いられる

## 児童の発した言葉

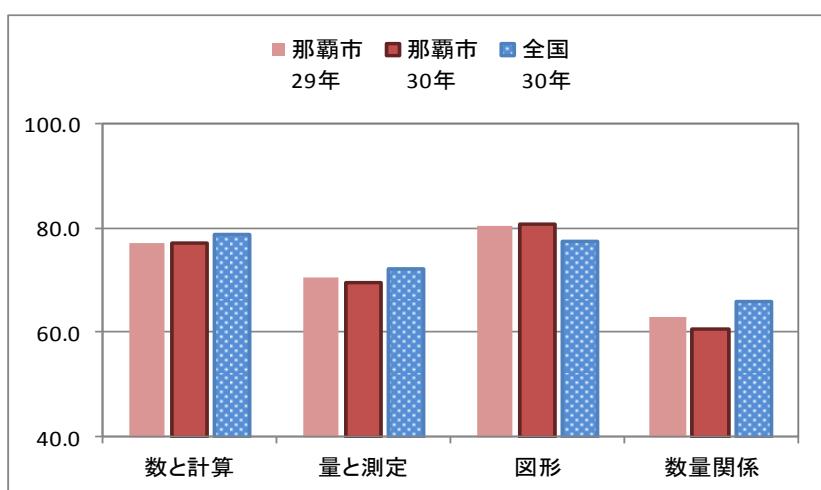
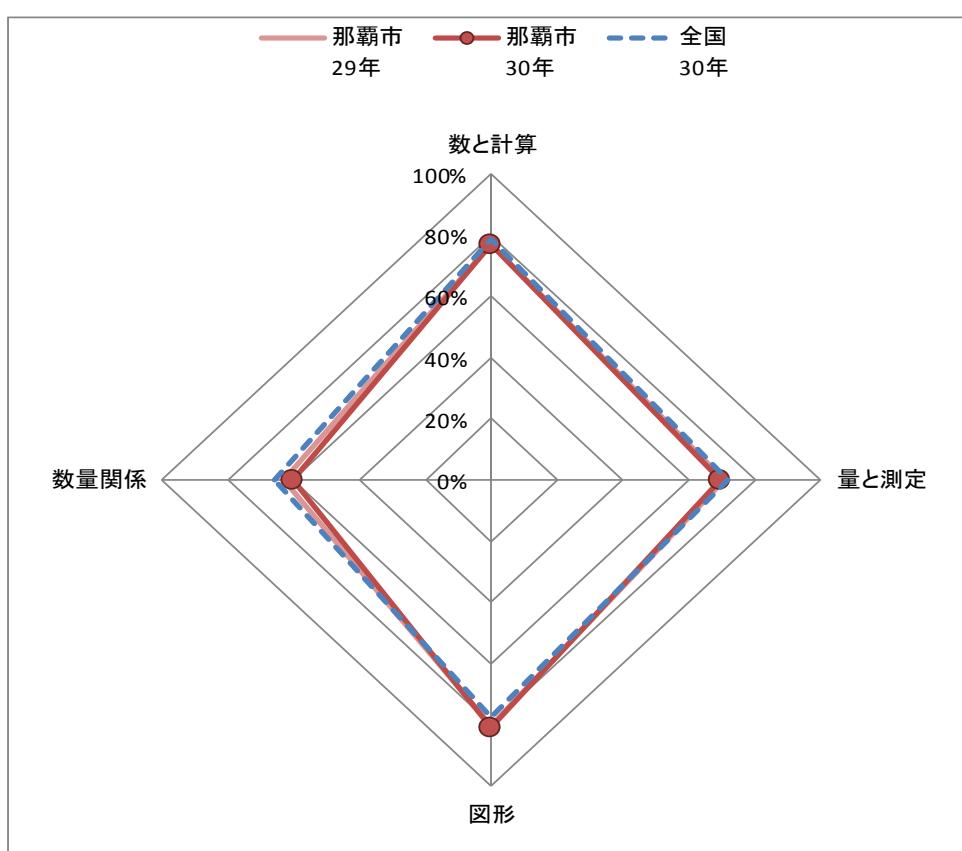
**思いを表す言葉の蓄積**

## 【第4学年 算数】

平成30年度那覇市到達度調査結果

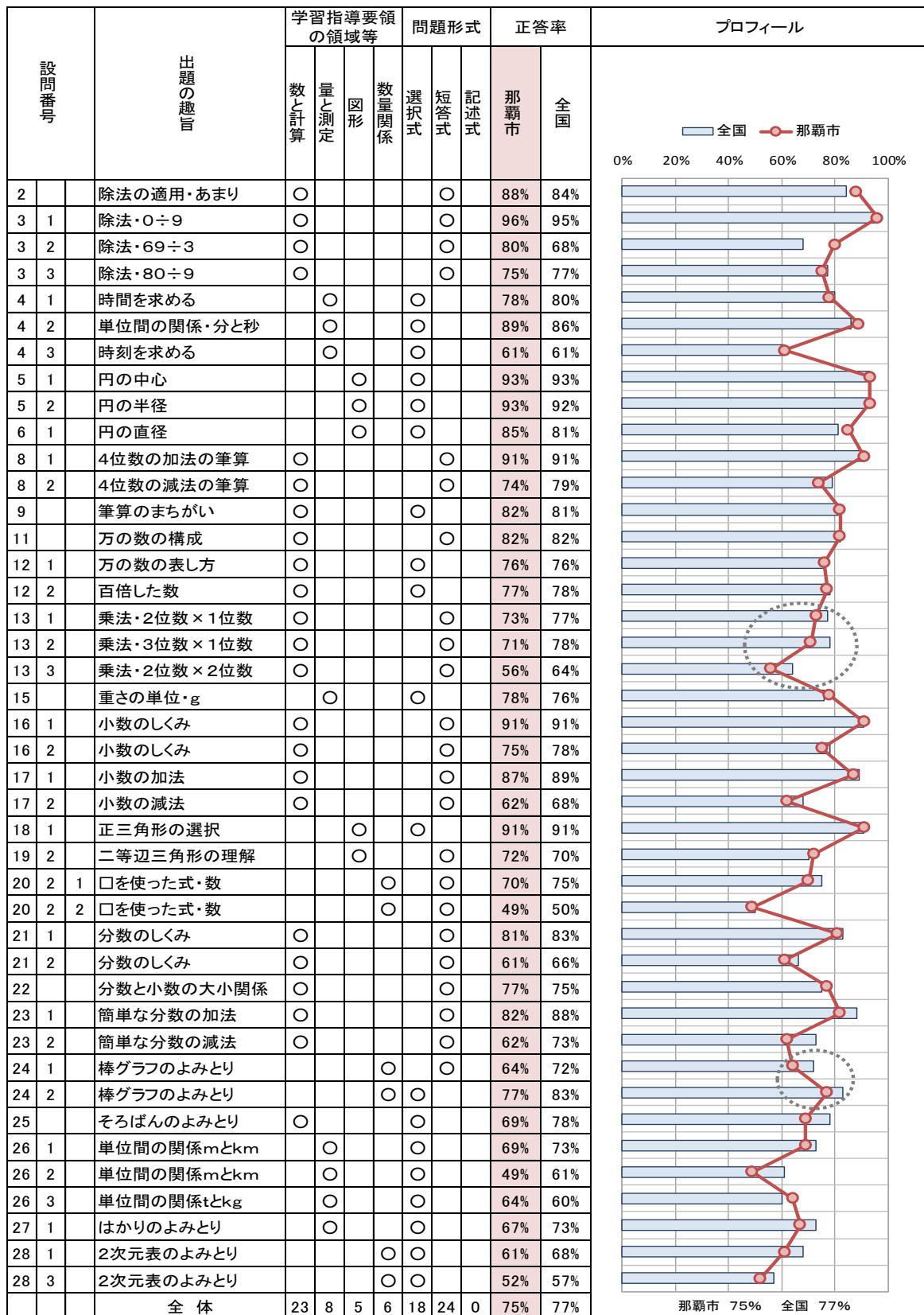
### 領域別結果（昨年度・全国との比較）

第4学年 算数	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
数と計算	77.1	77.0	78.7
量と測定	70.5	69.4	72.0
図形	80.5	80.8	77.5
数量関係	63.0	60.5	65.8



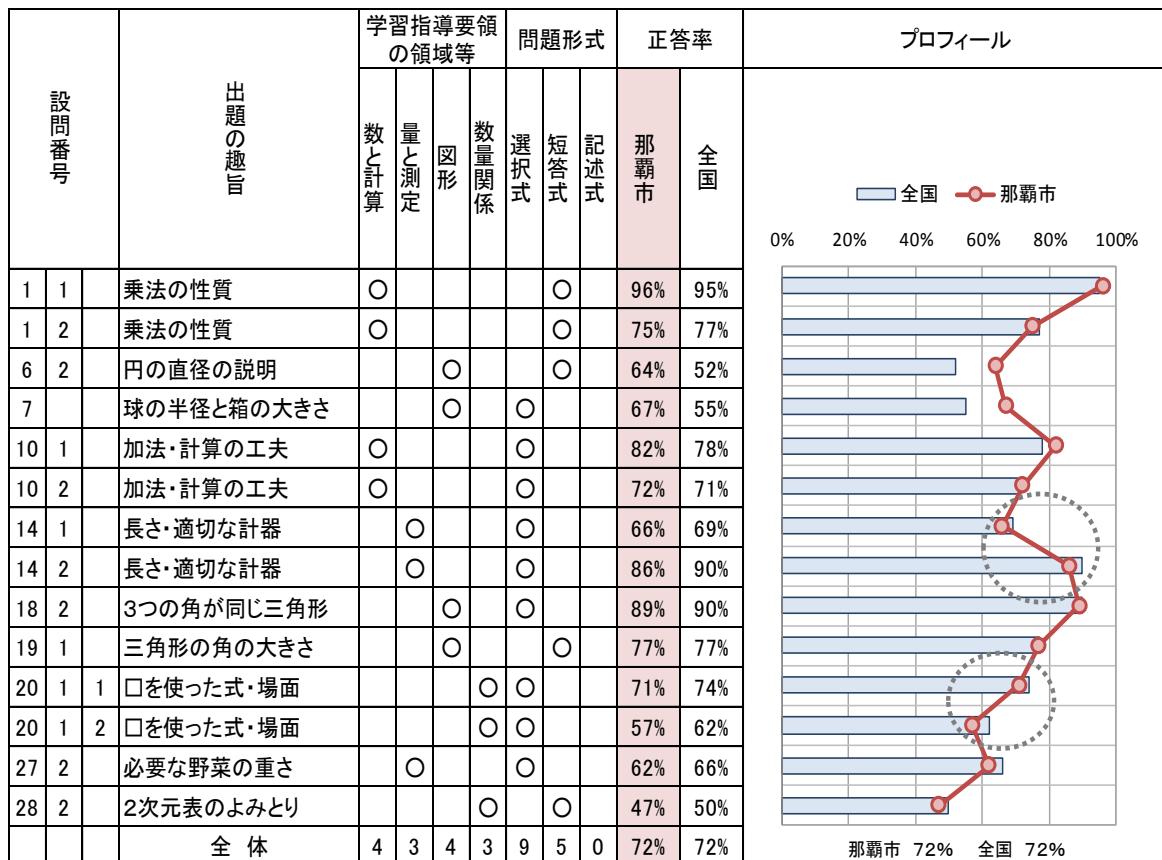
## 第4学年 算数 要素1

## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】



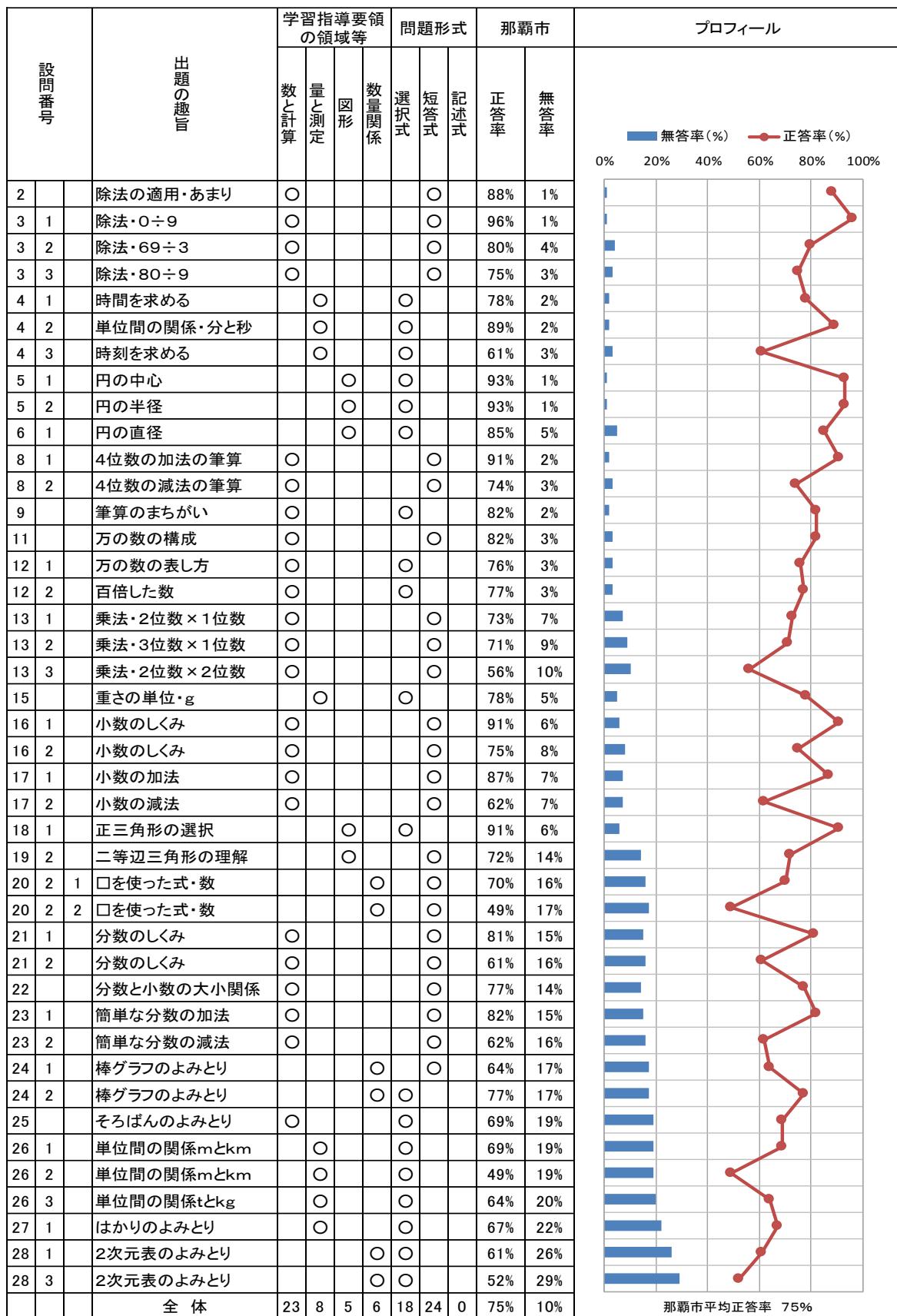
## 第4学年 算数 要素2

## 問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】



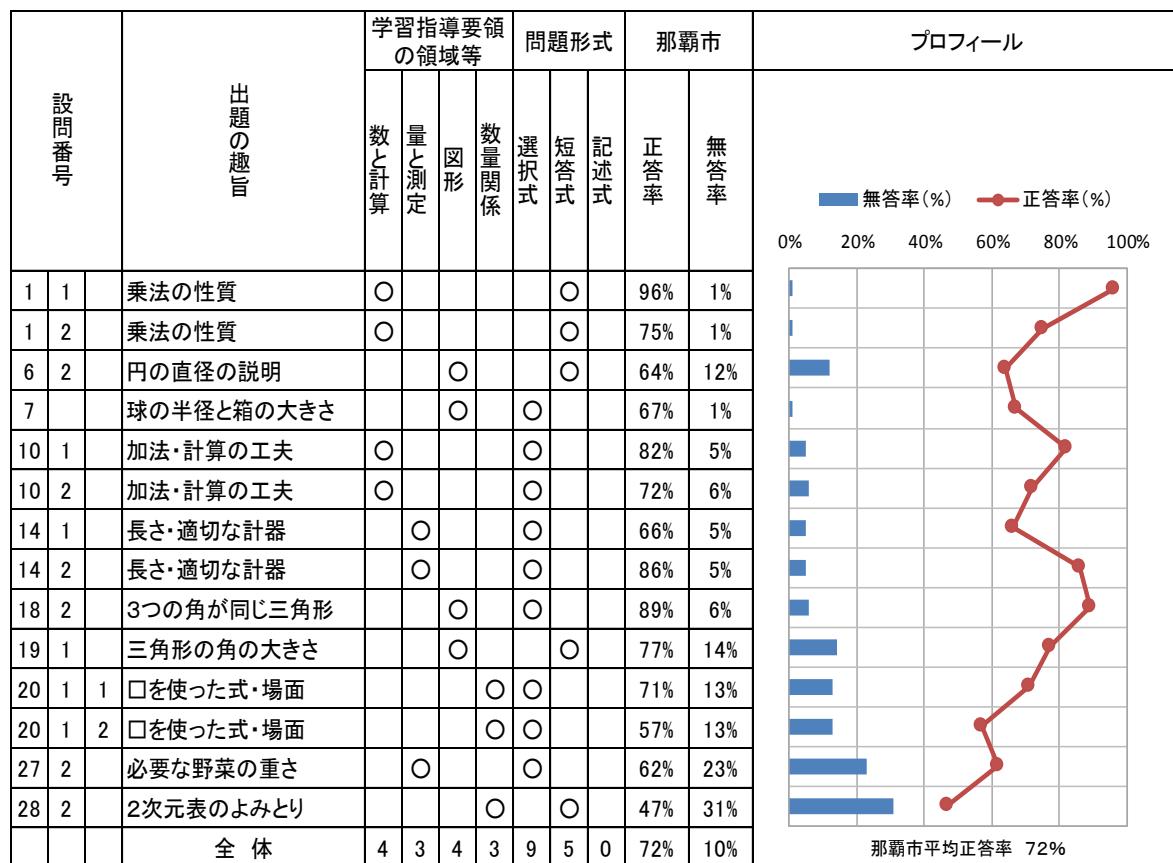
…課題となる問題として、考察コメントがあります。

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】



## 第4学年 算数 要素2

## 問題別調査結果 正答率－無答率 【要素2】



平成30年度那覇市到達度調査結果 那覇市立小学校全体

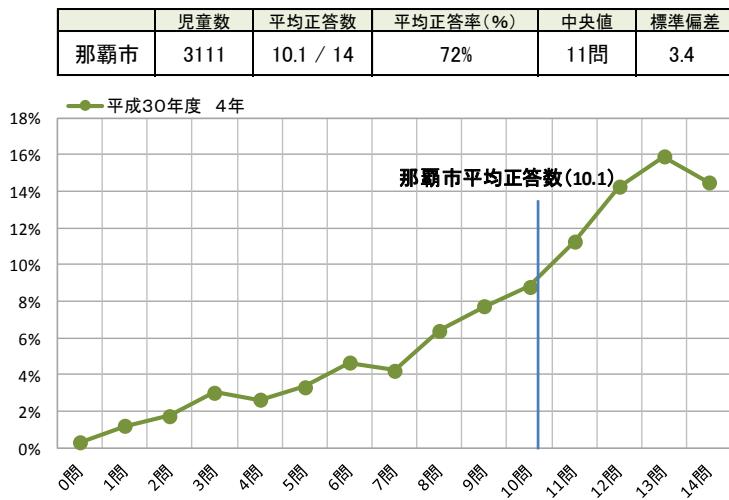
度数分布【要素1】



第4学年 算数

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	7	0.2%
1問	3	0.1%
2問	3	0.1%
3問	9	0.3%
4問	8	0.3%
5問	7	0.2%
6問	16	0.5%
7問	19	0.6%
8問	15	0.5%
9問	24	0.8%
10問	25	0.8%
11問	25	0.8%
12問	25	0.8%
13問	31	1.0%
14問	34	1.1%
15問	26	0.8%
16問	34	1.1%
17問	42	1.4%
18問	34	1.1%
19問	39	1.3%
20問	43	1.4%
21問	45	1.4%
22問	73	2.3%
23問	41	1.3%
24問	59	1.9%
25問	68	2.2%
26問	54	1.7%
27問	48	1.5%
28問	74	2.4%
29問	66	2.1%
30問	86	2.8%
31問	75	2.4%
32問	115	3.7%
33問	120	3.9%
34問	146	4.7%
35問	155	5.0%
36問	195	6.3%
37問	231	7.4%
38問	241	7.7%
39問	232	7.5%
40問	213	6.8%
41問	188	6.0%
42問	117	3.8%

度数分布【要素2】



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	9	0.3%
1問	38	1.2%
2問	55	1.8%
3問	95	3.1%
4問	82	2.6%
5問	104	3.3%
6問	145	4.7%
7問	132	4.2%
8問	200	6.4%
9問	240	7.7%
10問	274	8.8%
11問	350	11.3%
12問	443	14.2%
13問	494	15.9%
14問	450	14.5%

小学校4年算数において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が75%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が72%であった。要素1では42問中、中央値が35問であった。要素2では、14問中、中央値は11問であった。要素1の標準偏差が9.4と得点の散らばりが大きい分布となっており、低得点の児童も一定数いるので、これらの児童には基礎的な内容を着実に身につけさせたい。要素2では、10点～14点の1点刻みで児童がそれぞれ1割程度ずついる。高得点ではあるものの、それぞれの児童の課題を把握し、さらなる学力向上をめざしたい。

# 傾向の分析と課題となる問題

## ー小学4年 算数ー

### ●全体的な傾向●

#### 【要素1 知識・理解／技能】

- ・全体的には通過率の平均が75%と、基礎的な内容を習得できている児童が多い。
- ・2位数や3位数の乗法の計算（大問13）や、棒グラフの読み取り（大問24）において、全国的な傾向より通過率が下回っており、課題がみられる。

#### 【要素2 思考・判断・表現】

- ・全体的には通過率の平均が72%と、応用的な内容を習得できている児童が多い。
- ・適切な計器の選択（大問14）や、□を使った式（大問20）の問い合わせにおいて、通過率が全国的な傾向より下回っており、課題がみられる。

#### 【指導にあたって】

- ・乗法を中心に、位が大きな計算を確実に身につけさせたい。
- ・棒グラフを読み取ったりかいたりする際には、グラフの特徴に注意することをおさえさせたい。
- ・長さの見当をつけてから実際に測ることで、長さについての豊かな感覚を身につけさせることが大切である。
- ・□を用いた式については、学級内でお互いが作った場面や式をもとに考える学習を通して、□を用いることに慣れさせたい。

### ●課題となる問題●

\* 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
13 1	乗法・2位数×1位数	73	7	77	短答式

通過率：那覇市児童の正答率（%）

無答率：那覇市児童の無解答率（%）

全 国：全国児童の正答率（%）

形 式：解答形式

## 小学4年（小学3年学習内容）算数 【知識・理解・技能】

問題：

13【第3学年 数と計算 A(3)アイ】

24【第3学年 数量関係 D(3)ア】

問題内容：

13 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗数の計算ができるかどうかを見る。

24 棒グラフを読み取ることができるかどうかを見る。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
13	1	乗法・2位数×1位数	73	7	77	短答式
	2	乗法・3位数×1位数	71	9	78	短答式
	3	乗法・2位数×2位数	56	10	64	短答式
24	1	棒グラフのよみとり	64	17	72	短答式
	2	棒グラフのよみとり	77	17	83	選択式

### 誤答分析

- 乗法の計算においては、被乗数が3位数や乗数が2位数のような、数が大きい問題について誤りが多い。
- 棒グラフにおいては、1目盛りが2人を表していることを読み取れないことによる誤りがみられる。

### 指導にあたって・指導例

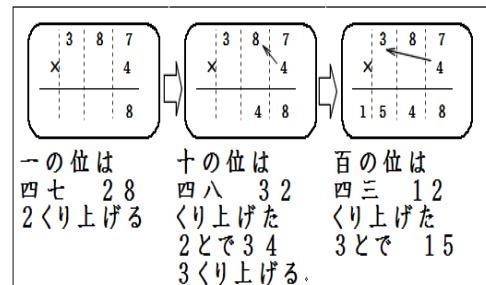
#### 【乗法・2位数×1位数 3位数×1位数 2位数×2位数】

乗法の計算では数が大きくなると誤りが多くなる。筆算のときに書かれる数字の数が多くなっていくので、どの計算をどこに書けばよいのか、1つずつ丁寧におさえていくように指導したい。また、ある程度の見通しを持って計算をすることが大切である。例えば、2位数同士の乗法を行ったときに答えは2位数より大きくなるが、答えが2位数となってしまったときに、

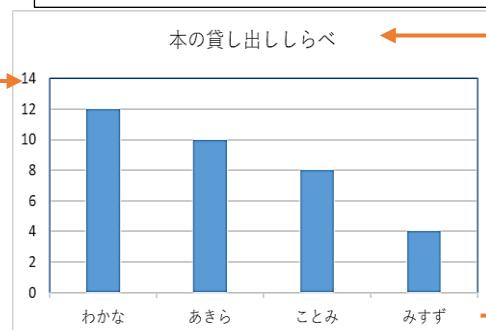
「筆算をどこかで間違えた」と気がつけるようになると、自分で修正できるようになる。

#### 【棒グラフ】

棒グラフで表すと数の順番や差がわかりやすいという良さがあるが、目盛りや項目を確認しないと誤りが起こりやすい。何を示しているグラフであるのか、縦の軸の目盛りはいくつなのか、どのような項目があるのかをきちんと確認することを習慣化させたい。授業においては、棒グラフを自分で作成する活動を通して、何に気をつけて棒グラフをかけばよいのかを実感させることで定着させることが大切である。



- ①手順を確認しながら見通しを持って計算できるようにする。
- ②間違いが起きやすい問題は全体で取り上げて指導する。
- ③繰り返し練習



- ①グラフが何を表しているのか確かめる
- ②縦軸・横軸の目盛りや項目を確認する習慣
- ③グラフを作成する活動を繰り返す

## 小学4年（小学3年学習内容）算数 【思考・判断・表現】

問題：

- 14 【第3学年 量と測定 B(2)】  
 20 【第3学年 数量関係 D(1)・D(2)イ】

問題内容：

- 14 測定するものに応じて、長さを測るための適切な計器を選ぶことができるかどうかを見る。  
 20 □を用いて表された式について、具体的な場面を考えたり、当てはまる数を求めたりすることができるかどうかを見る。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
14	1	長さ・適切な計器	66	5	69	選択式
	2	長さ・適切な計器	86	5	90	選択式
20	1	□を使った式・場面	71	13	74	選択式
	2	□を使った式・場面	57	13	62	選択式

### 誤答分析

- ・長さのおよその見当をつけることができずに、適切な計器を選ぶことができていない。
- ・乗法と除法の場面を混同するなど、□を使った式と、それに合う場面を結びつけることができない誤りがみられる。

### 指導にあたって・指導例

#### 【長さ・適切な計器】

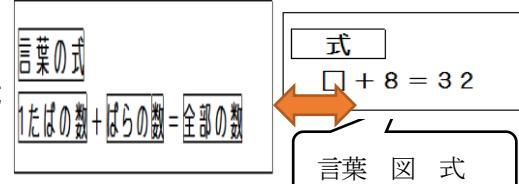
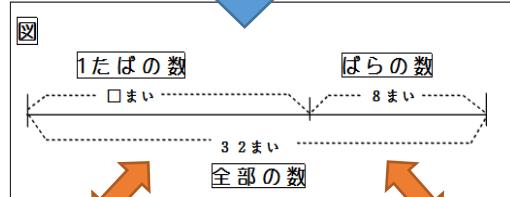
長さについての感覚は、実際に身の回りのものの長さを測る活動を通して身につけることができる。その際、長さの見当をつけてから実際に測ることで、感覚と実際のずれを感じることができ、実感を伴って理解することにつながる。そういった活動を通して、10 cmや1 mがどのくらいの長さであるのか、感覚として理解することが大切である。見通しをもって長さを捉えることができることで、適切な計器を選択することができるようにさせたい。

#### 【□を使った式・場面】

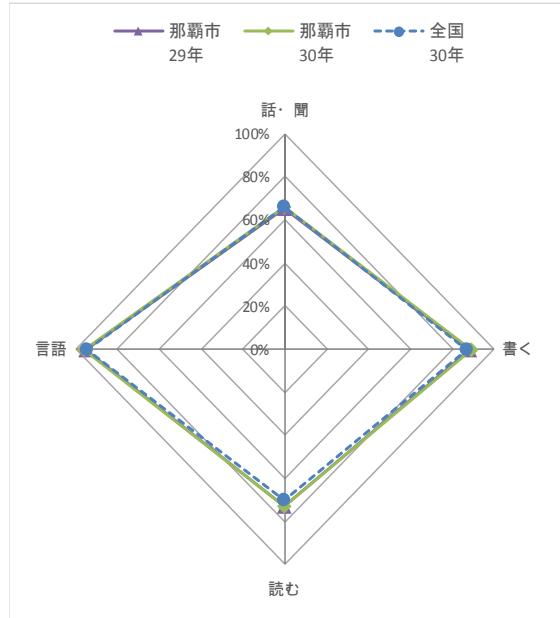
□を使った式においては、どのような場面なのか、何を文字で表しているのかなどをしっかりとおさえさせたい。授業では、□を用いた式を作りて共有し、お互いが作った問題を考えることで、□を用いることに慣れていくことも効果的である。また、式を立てた後には実際に数を当てはめて、確かめを行うことで誤りに気づくようにさせたい。高学年の文字を用いた式につながっていく学習なので、しっかりと定着を図りたい。

問題がどのような場面なのかを読み取らせ、言葉の式や図などを使って考え、式化につなげる。

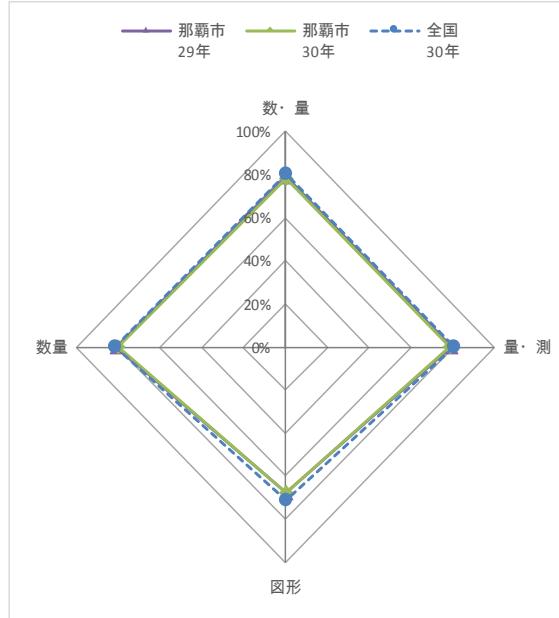
問題文  
 色紙が1たばと、ばらが8まいあります。  
 色紙は全部で32まいあります。  
 1たばの色紙の数は、何枚ですか。



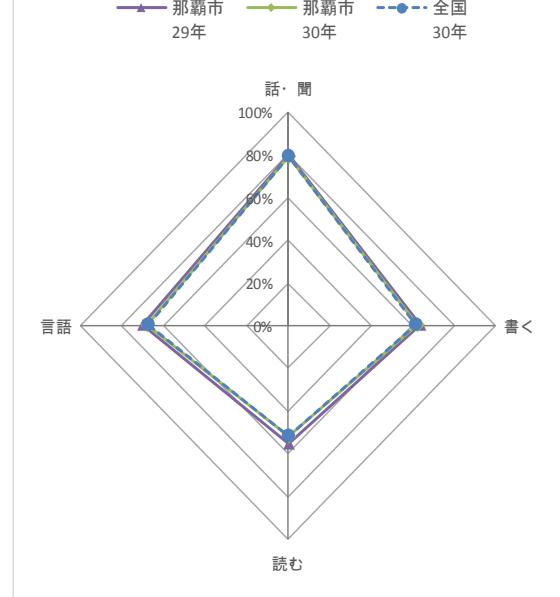
第2学年 国語	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	65.3	65.9	66.2
書くこと	88.4	89.1	87.1
読むこと	72.6	73.2	70.5
言語事項	95.5	95.8	94.8



第2学年 算数	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
数と計算	78.7	78.4	80.1
量と測定	79.1	78.3	80.3
図形	67.7	67.6	71.2
数量関係	80.7	80.3	81.6



第4学年 国語	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	79.9	79.3	78.8
書くこと	63.4	62.1	61.2
読むこと	55.0	51.8	51.9
言語事項	69.9	68.2	67.0



第4学年 算数	那覇市 29年	那覇市 30年	全国 30年
数と計算	77.1	77.0	78.7
量と測定	70.5	69.4	72.0
図形	80.5	80.8	77.5
数量関係	63.0	60.5	65.8

